京都 平安京の天門

天満宮

題字／後西天皇御宸筆

特集

◆令和の北野祭斎行

◆コロナ禍の影響により三年ぶり
京都府支部当番で第五十六回全国天満宮梅風会総会開く

◆天神さまと私――将棋五冠 藤井 聡太 叡王

北野天満宮社報 夏号 Vol.32
KITANO TENMANGU NEWS

日本文化の中心地 京都
その文化の礎を築いた天神信仰発祥の社

北野天満宮の由緒

当宮は御祭神に菅原道真公（菅公）をお祀りした全国天満宮・天神社一万二千社の宗祀（総本社）の神社です。

天神信仰発祥の社として今から千年余り前の村上天皇天暦元年（九四七）六月九日、御神託により平安京の天門にあたる北野に御鎮座致しました。天徳三年（九五九）右大臣藤原師輔卿が御社殿を造営、一條天皇により北野祭は官祭に与り、「北野天満大自在天神」の神号を賜り、さらに皇室・朝廷の崇敬を受け臣下として初めて二十二社に加えられ、官幣中社に列格、皇城鎮護の神として崇められるとともに、天満宮・天神社の総本社として崇敬されてきました。

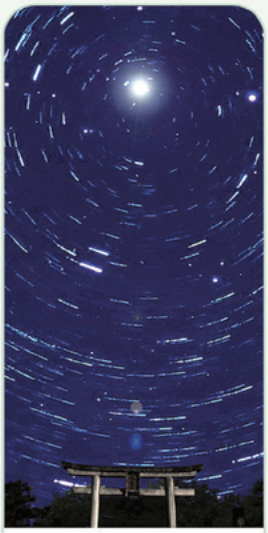
創建以来、皇室との御縁深く、寛弘元年（一〇〇四）には一條天皇がはじめて北野社に行幸されました。以来歴代天皇の行幸も二十数度に亘り、さらに将軍家や有力大名の崇敬を受けました。菅公薨去延喜三年（九〇三）より凡そ百年の歳月をかけて誕生した北野の天神信仰は、平安京の天門にあって、朝野を問わず人々の暮らしの最も重要な指針となり今日まで育まれてきたのです。

「文道大祖 風月本主」と崇められた菅公は、和魂漢才の精神で誠の心を以って学問に勤しまれたことから、学問をはじめ芸能・農耕・厄除け・至誠・冤罪を晴らす神として奉祀されるとともに、人々の心の支えとなる神として、各時代の社会構造と相まって篤い崇敬をうけ、庶民に至るまで「天神様」として親しまれてきました。菅公は、学者・政治家また詩人・教育者として多方面に活躍され、生涯一貫された「誠の心」は、日本人の感性として現在にも生き続けています。

千有余年に亘る歴史の中で受け継がれてきた天神信仰の根本を示すのが、当宮所蔵の国宝「北野天神縁起絵巻」承久本です。数ある縁起絵巻の中で唯一無二の神社絵巻物であり、その信仰性や描かれる世界観、美術的価値は世界が認めるところであります。

また現在の御社殿は、豊臣秀吉公の遺命により豊臣秀頼公が片桐且元を奉行として、慶長十二年（一六〇七）に造営された一大建築群です。御本殿は八棟造（やつむねづくり）と称され、国宝の指定を受ける桃山文化の代表的建築です。その絢爛豪華さは謂うまでもありませんが、特に多数の桃山建築中でその創建当時の規模そのままに保存されているのは当宮が唯一のもので、後世の権現造の原型となるなど、神社建築史に多大な影響を与え続けています。

菅公の御神霊を祀る北野天満宮は、御墓所・太宰府天満宮と共に全国天満宮の宗祀と称され、日本文化の礎、学問の神様として今日も多くの参詣者が訪れています。



京都 平安京の天門

【シンボルマーク】

平安京の天門に位置する北極星を星梅鉢と鳥居（北野）で捉えたマーク。北野は千二百年に亘り、国都として文化を育んだ平安京にて、天の神々の出入口「天門」に菅原大神が奉祀された聖地です。爾来、北野の地より全国に天神様の御神威が益々昂揚していきました。

表紙写真 ── 大福梅の梅の実採取 ──

梅雨明け宣言の翌日、当宮境内では恒例の大福梅の梅の実採取を行った。
厄除け祈願・疫病退散の御神徳宿る北野の梅干しを、元日早朝に服す大福梅の信仰は、京都の伝統行事として今に伝えられている。

御挨拶

菅公千百二十五年半萬燈祭に向けて

夏越の大祓・茅の輪くぐり（祓いと清めの聖地・北野）

謹んで聖寿の万歳と皇室の弥栄、氏子崇敬者の皆様方のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。

扨、令和九年三月の式年大祭「菅公千百二十五年半萬燈祭」まで愈々五年に迫って参りました。

当宮では古来、五十年毎に「大萬燈祭」二十五年毎に「半萬燈祭」を斎行し、御祭神をお慰めするとともに、菅公が御生涯を通して貫かれた「至誠」の精神と平安京から連綿と続く天神信仰の更なる発揚と御社殿建造物の修繕整備、また文化宣揚事業を執り行って参りました。

顧みれば、去る昭和五十二年の半萬燈祭、そして平成十四年の大萬燈祭とこれまで二度の大祭に御奉仕が叶いましたのも、偏に御神慮の賜物であり大変有難い事と謝し奉る次第であります。

次の半萬燈祭に向けて、二十年前より旧儀復興に力を注ぎ、さらに三年前には、境内の歴史的文化財を再調査し修繕整備事業を目的とした「文化財再調査委員会」を立ち上げました。現在、行政関係や専門家から構成する有識者らを交えて精力的に活動を行い、国指定・有形・無形問わず、当宮に遺された多くの文化財を正確な調査によりその歴史的価値を見直すよう取り進めて戴いております。

一昨年、昨年とコロナ感染症などの影響により、神社行事を止めざるを得ない状況が続きましたが、そのような中でも、祭祀の厳修を第一義に、職員一丸となって天神信仰発揚と神徳宣揚に務めて参りました。比叡山延暦寺様との北野御霊会の再興、宇多天皇と菅公の御神縁に始まる仁和寺様との文化事業、清水寺様や妙満寺様との歴史的行事など、北野の歴史や信仰に則った様々な文化事業は、次なる半萬燈祭に於いても重要な要素となる行事であります。

六月晦日には夏越の大祓による祓えの神事を執り修めましたが、八月斎行の御手洗祭で更に身を清め、かつての勅祭に由来する「北野祭」（現例祭）を中心に、十月の瑞饋祭までを「令和の北野祭」と位置づけた一連の神事も、引き続き、盛儀の裡に斎行されるよう努めて参る所存であります。

今後とも皆様の格別なるご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

北野天満宮
宮司　橘　重十九

天神さまと私

将棋五冠　藤井聡太叡王

今号は、叡王戦を初防衛した将棋五冠の棋士、藤井聡太叡王に登壇頂き、橘重十九宮司との対談を掲載する。（構成・編集部）

宮司　このたびは叡王戦の見事な防衛おめでとうございます。

藤井　ありがとうございます。

宮司　叡王戦の対局場所に当宮が入っており、楽しみにしていました。でも、それまでに勝たれてしまったので、当宮での対局はなくなりました。もちろん、勝たれることが何よりうれしいのですが、藤井先生がここで対局される姿が見たかったというのも偽らざる気持ちです。

―対局なくなっても天神さまに参拝出来てうれしい

藤井　ありがとうございます。今期の叡王戦の第五局が北野天満宮さまでご予定頂いて、私としてもそれを楽しみにしていました。対局はなくなってしまいましたが、それでもこのようにお招き頂き、参拝が叶いましたのでうれしく思っています。また今後、何かの機会、対局で伺うことが出来ればと思っています。

宮司　ありがとうございます。私どももそれを楽しみにしています。

全国に八万の神社がありますが、うち一万二千社が天神さまであり、庶民に親しまれている神さまです。学問の神さまとして崇敬されていますが、芸能・文化などの神さまとしても広く信仰されています。まず本日、お参りされるに当たってのご感想をお聞かせ下さい。

藤井　北野天満宮さまが「学問の神」だというのは知っていたのですが、芸能の神さまでもあるということで、将棋も一つの文化・芸能でもあるので、私も今日お参りさせて頂くことで、何かすごくいいことがあるのではと思っています。

宮司　当宮は将棋と非常に御縁が深いお社です。将棋の駒造りは水無瀬神宮（大阪府三島町）が有名ですが、明治に入るまで当宮は門跡寺院の曼殊院が別当を務め、管轄下にあったのですが、どうやら曼殊院も駒造りにも関与していたようです。曼殊院に駒文字の手習い書といえる『将碁馬寫』という古い文献が遺されています。御祭神の菅公が、書の三聖の一人といわれる能筆家ですから、これで駒文字の練習をし、駒造りにも関与したのかもしれません。また将棋のみならず、実は碁も当宮で盛んに打たれていた記録が残っています。当宮史料『北野社家日記』によれば、慶長五年（一六〇〇）二月に、本因坊算砂が当宮に碁を打ちに来るという出来事があったようですが本因坊算砂と言えば、安土桃山時代から江戸時代にかけて活躍された囲碁棋士で、碁打ちの・将棋指しの名手であり、囲碁界の基礎を築いた人として有名ですが、当宮で度々囲碁を打ち、仲間や弟子らと酒を酌み交わし、交流を深めていたようです。

いずれにしても、囲碁や将棋、あるいは連歌や和歌などの文化が北野でも育まれ発信されたということは、文化芸能の天神様という信仰が当時の人々に浸透していた証拠と言えると思います。御祭神の菅公も昌泰三年、時の帝であられた醍醐天皇へ奏進された『菅家文草』の中で、囲碁に纏わ

る詩を遺されておられます。当宮は特に中世以降、連歌の拠点として名を馳せますが、様々な文化が根付いており、慶長期の記録を見ると、碁や将棋を打つ人たちも多数出入りしています。北野は御祭神に始まり、囲碁や将棋と非常に御神縁深い神社だといえるのです。ところで将棋の発生はインドでしたね。

藤井　はい。

宮司　取った駒が再び使えたり、駒の成り方も面白く、私は日ごろから将棋というのは素晴らしい文化だと思っておりますが、そのようになったのは日本だけでしょうか。

藤井　チャトランガ（古代インドのゲーム）から発生したゲームは西洋であればチェスなどですが、取った駒が再び使えるというのは駒将棋の独特のルールで、それによって局面が中盤から終盤に進むにつれて、チェスであれば駒がどんどん減ってしまいますが、将棋は局面がどんどん複雑になっていくというところがあって、そこに将棋ならではの面白さがうまれているのではないかと思います。

宮司　私は子どものころ、田舎の縁台将棋で三手か四手ぐらい先を読んで得意がっていましたが、先生は四時間・五時間の対局で、何手ほど先を読まれるのでしょうか？

藤井　それは局面によるところが大きいです。序盤から中盤の早い段階であれば浅く広く読む場面が多いですが、終盤であれば一つの変化を深く掘り下げて考えるということになりますので、終盤のそのような場面になれば三十手、四十手先まで考えることもあります。

宮司　それはすごい。やはりプロ棋士というのは想像を絶する凄さを感じます。そんな先生が最初に将棋の駒を持たれたのは何歳ぐらいだったのでしょう？

―将棋との出合いは五歳、祖母にルールを教えられ

藤井　自分が将棋を始めたのは五歳のころです。

宮司　五歳…お父さんがなさっていたとか、誰かに強く勧められたとか。切っ掛けは何だったのでしょう？

藤井　それほどはっきりした切っ掛けというものはないです。最初は祖母にルールを教わりました。祖母も初心者で、ルールを覚えてすぐに祖母に勝てるようになりましたので、それが楽しくてその後も続けたというところが大きいと思います。

宮司　それで現在は日本を代表するような棋士先生になられたわけですが、始められたころから「そのようになりたい」と思われていたのでしょうか。

藤井　いえ、自分の場合は子どものころから大きな目標を抱いていたわけではなく、常に続けたいという気持ちがあったからではないかと思います。やはり将棋の面白さといいますか、新しい発見といいますか、今でも日々あることなので、これからもその気持ちを大事にしていきたいと思います。またその面白さというものを多くの方に感じて頂きたいと思っています。

宮司　十四歳二カ月という史上最年少でプロになられ、しかもそこから破竹の二十九連勝でした。将棋の八大タイトルのうちの五つ（竜王・王位・叡王・王将・棋聖）を獲得され、将棋界は「羽生善治ブーム」以来の「藤井聡太ブーム」と呼ばれていますが、ご感想をお聞かせ下さい。

―よい将棋を指して、将棋ファンの期待に応えたい

藤井　自分としては、そんな風に色々取り上げて頂くことは全く予期していませんでしたので、最初のうちは戸惑いもありましたが、やはりそういうことを通して、今まで将棋をあまり知らなかった多くの方々にも新たに関心を持って頂けるようになってきたことは、大変よいことだと思いますし、また自分がよい将棋を指すことで、それに応えていきたいと思っています。

宮司　プロになられてから随分色々な方と対局されてきたと思いますが、思い出深い対局はありますか。

藤井　思い出深いという点からいえば、デビュー戦の加藤一二三九段との対局です。自分にとっては貴重な経験だったと思いますし、それは今でも印象に残っています。

宮司　その加藤九段との対局は、六十歳以上の年齢差も話題になりましたが、対局から感じられたことはありましたでしょうか？

藤井　加藤先生との対局は、盤を挟んで迫力を感じることができました。将棋というのは年齢に関係なく盤を挟んでしまえば誰でも対等に対局することが出来るというのが魅力の一つなので、本当に貴重な機会を頂けたと思っています。

宮司　羽生九段も永世七冠を達成され、国民栄誉賞を受賞された後、当宮に参拝され、このコーナーの対談をさせて頂く機会がありました。先日、公式戦千五百勝を上げられたことがニュースになっていましたが、羽生九段とも対局されていますね。

藤井　羽生先生とはこれまで何回も公式戦の対局をさせて頂いていますが、対局ごとにこちらが気付いていない手を指される場面が必ずあって、新しい可能性を気づかせて頂いている方だと思います。

―悔しがる気持ちが強くなりたいという気持ちに結びついた

宮司　師匠の杉本昌隆八段の著作などを見ると「人一倍悔しがる性格が強さに結びついている」という風に書かれていますが、そのあたりについてお聞きします。

藤井　子どものころは結構負けず嫌いのところが強くて、大会で敗けて泣いてしまうなんてことがよくありました。その悔しいという気持ちがあったことで、もっと強くなりたいという気持ちを持つことができたので、そういう気持ちも自分にとって必要なものだったと思います。ただ悔しがるばかりでもいけないので、そこのバランスは難しいところだと思います。

宮司　将棋の世界でも今、ＡＩ（人工知能）を取り入れて研究する人が増えていると聞いていますが、ＡＩについてどうお考えでしょうか。

藤井　今まで将棋は人間だけのゲームだったのですが、ＡＩとの触れ合いが出来たことで人間の常識にとらわれない発想や指し方が出てきたという面があって、そういうものを見ることは刺激になります。そのような新しい感覚を取り入れていくことで、こちらも上達することが出来るのではないかと思っています。

宮司　本日はこの文道会館の一角で「天神さん子ども将棋大会」を開いています。後ほどその子どもたちと交流して頂く時間もあるようですのでよろしくお願いします。（五面に掲載）

最後に子どもたちに向けたメッセージを一言お願いします。

―将棋に限らず楽しく感じたことは追究し掘り下げよ

藤井　将棋というのは、自分の発想を盤上で表現できるゲームなので、自分ならではの考えを盤上で試してほしいと思います。先ほども申しましたが、自分の場合、五歳で将棋に出合って、どんどんのめり込んでいきました。出合いは偶然だったのですけれども、自分が楽しいと感じたことは、それを追究して掘り下げていってほしい。そういう気持ちを将棋に限らず持ってほしいと思っています。

宮司　ありがとうございます。天神さまの御加護で、先生が益々ご活躍されることをお祈りします。

藤井　聡太（ふじい・そうた）氏略歴

二〇〇二年七月　十九日　愛知県瀬戸市出身
二〇一二年九月二十二日　六級で新進棋士奨励会入会（杉本昌隆八段門下）
二〇一六年十月　一日　史上最年少で四段昇段
二〇一七年四月　四日　十一連勝してデビュー以来の連勝の新記録達成
二〇一七年六月二十六日　二十九連勝で連勝新記録達成
二〇二〇年七月　十六日　第九十一期ヒューリック杯棋聖戦で渡辺明棋聖を三―一で破り、史上最年少で初タイトル獲得
二〇二二年六月現在　タイトル五冠（竜王・王位・叡王・王将・棋聖）を保持

藤井聡太叡王が昇殿参拝

文道会館で子どもの質問に応じるなど交流

「将棋を楽しむ気持ちを大事に」

子どもたちとの交流

将棋の藤井聡太叡王が六月十八日、当宮を訪れ正式参拝された。この後文道会館で開かれた「叡王戦初防衛記念・天神さん子ども将棋大会」の会場に赴き、入賞者に表彰状を手渡し、子どもたちの質問に応じるなど交流を深めた。

当宮が叡王戦の第五局の対局場に決まり、準備が進められていたが、藤井叡王が三戦全勝で勝利を収めたため当宮での対局は幻となったが、将棋との御神縁深く、学問・文化芸能の神である当宮に参拝される運びとなり、実現に至った。

正式参拝後、藤井叡王は「今回対局はなくなりましたが北野天満宮は学問の神さま、芸能の神さまであり、身の引き締まる思いがしました。より将棋に精進していきたいという思いを強く持ちました」と参拝の感想を語った。

撫牛に触れるなど境内を歩く藤井叡王を目ざとく見つけた参拝者からは「将棋の藤井聡太さん！」「将棋の天才だ」という声が囁かれ、スマホを向けて写真を撮る人も相次いだ。

文道会館での「天神さん子ども将棋大会」は、コロナ禍によりこのところ開かれておらず、この日は「藤井聡太叡王・叡王戦初防衛記念」と銘打って開かれた。京都府内から抽選で選ばれた六十四人の小中学生らが有段者の部と級位者の部に分かれ、盤上で熱戦を展開した。トーナメントによる成績優秀者八人に一人ずつ藤井叡王が「おめでとう」と、表彰状を手渡した。藤井叡王から表彰状を受け取った小学校三年の児童は「うれしかった」と顔をほころばせていた。

この後子どもたちとの一問一答が行われた。「好きな駒は何？」の問いには「角が好き。上手く使えば性能がどんどん上がるのが魅力」と答え「将棋を辞めようと思ったことは？」の質問には「敗けて悔しいと思ったことはたくさんあるが、辞めたいと思ったことは一度もない。将棋の面白さに魅かれていたから」と答え「みなさんも敗けて悔しいという思いを持つことも大事だが同時に将棋を楽しむ気持ちを常に大事にしてほしい」と語りかけた。

表彰者たちと記念撮影

また、「苦手な戦法は何ですか？」「A級に入られ、楽しみな相手は？」などといった鋭い質問も飛び、「ここではちょっと……」と、藤井叡王を困らせたかと思えば「明日は父の日です。何をあげますか」の意表を突いた質問もあり「それはまったく頭の中にありませんでした。何か用意します」と答え、会場は爆笑の渦に包まれた。

会場にいた保護者の一人は「あれだけすごい棋士なのに、そんな素振りは少しも見せずにどんな質問にも丁寧に答えて下さった。天神さんこども将棋大会に参加させてよかった」と話していた。

駆けつけた多くの報道陣

子供たちの質問に答える藤井叡王

賞状授与

※当宮と将棋については、八頁～九頁を参照

勅祭に由来する「令和の北野祭」北野七夕祭はじまる

様々な願いを込めた笹飾りがお目見え 平安騎馬隊が安心・安全訴え参道を行進

境内に飾られた七夕笹

夏の当宮の恒例行事として行われる御手洗神事（北野七夕祭）が七夕の七月七日より始まった。

境内一円には地域の子どもたちや氏子地域の住民、訪れた参拝者が「健康に過ごせますように」「疫病退散」など様々な願いを込めた笹飾り約五十本を設置した。また今回は七夕の日に呼応した京都府警平安騎馬隊の騎馬二騎と地元の上京警察署が参道を行進し、地域の安全や交通事故のない町となるよう啓発活動を行った。

この日当宮を訪れたのは、平安騎馬隊員や上京署員ら警察官約二十人。当宮の巫女らとともに楼門前の笹飾りに願いを書いた短冊を奉納した後、男女の騎馬隊員が小倉号と大江号の二頭の馬にまたがり、一の鳥居まで静々と行進した。一の鳥居前では、参拝者らに特殊詐欺や自転車盗難防止、交通安全などの啓発グッズを配布し、安心・安全な町になるように呼びかけた。

時ならぬ騎馬の行進に修学旅行生や参拝者は大喜び。近くの主婦は「子どもに七夕飾りを見せようと参拝したが、格好いい騎馬隊が見られるなんて幸運でした」と喜んでいた。

当宮では、御祭神菅公の御歌「彦星の行あひを待つかささぎの渡せる橋をわれにかさなむ」の御心に添い、古くより七夕信仰盛んな神社であり、天門北野の地の祓いと清めの信仰、北極星瞬く星の信仰、北野御手水神事による水の信仰、西陣の中心地として機織りによる棚機信仰など、様々な信仰が融合された神事形態を有している。七月七日の境内七夕笹飾りを皮切りに、八月十四日まで夏の御手洗神事が様々な行事とともに開催され、北野界隈の夏を盛り上げる。

願い短冊の飾り付け

コロナ禍の影響で、一昨年・昨年と十分な形で開催することが難しい御手洗神事であったが、本年は境内夜間参拝や御手洗川足つけ燈明神事、御本殿石の間通り抜け神事など、これまで行ってきた当宮ならではの神事も従来通り開催する。

さらに八月七日には重儀御手洗祭を厳粛に斎行し、九月四日の例祭・北野御霊会、そして十月一日のずいき祭まで、一連の神事を「令和の北野祭」と位置づけることで往時の北野祭を現代に復興させ、令和九年の菅公千百二十五年半萬燈祭に繋げていく。

京都府警 平安騎馬隊・上京警察署合同で安心安全パトロール

平安騎馬隊 表参道をパトロール

御手洗祭
八月七日 午前十時　斎行

菅公御遺愛の松風の硯

当宮では古来、御手洗祭を七夕信仰になぞらえた星祭の意味だけでなく、初秋にあたる四季祭の一つと数え、祓の神事と位置づけてきた。前日に祓い清めた御神具と梶の葉、季節の野菜等を御神前に献上するこの祭は、かつて角盥の上で梶の葉に水差しの清水をかけることで「禊」の姿を表し、北野祭執行に先立つ「禊祓の御祭」として斎行されてきた歴史ある祭典である。

金蒔絵の角盥と梶の葉

例祭（大祭）九月四日
北野御霊会　午前十時斎行

永延元年（九八七）、一條天皇が初めて北野祭を勅祭として斎行された由縁による一年で最も重要な祭典。当宮に伝来する「北野祭礼図絵巻」には、勅使を迎えて斎行される荘厳かつ絢爛豪華な神輿渡御列をはじめ御神楽や稚児行列など様々な神事が盛大かつ厳粛に執行される様子が描かれている。

瑞饋祭
十月一日～五日

京都の秋祭りの先陣を切って行われる瑞饋祭。一日の神幸祭、四日の還幸祭には、村上天皇御寄進の第一鳳輦や一條天皇御寄進の葱華輦などを含む渡御列が氏子区域を巡行し、往時の北野祭の祭列を今に伝える。

例祭（大祭）を中心に、御手洗祭から瑞饋祭まで続く一連の祭礼

現在の例祭（九月四日斎行）

九月四日に斎行する当宮で最も重要な祭典「例祭」。この神事は、永延元年（九八七）、時の一條天皇が臣下である菅公を奉祀する北野社に勅使を差遣され、勅祭として祭典を執り行われたのを始まりとし、朝廷の篤い尊崇と雅な平安王朝文化を現す京都随一の祭であった。室町時代には幕府主導の祭礼となり、なかでも三代将軍足利義満公の絶大な庇護を受けた北野祭は最盛期を迎えたと伝わる。

厳粛な祭典と神輿を中心にした華麗な渡御列を併せ持つ、このかつての北野祭は、御手洗祭（北野御手水神事）による祓の儀式に始まり、北野祭本祭までのおよそ一か月間に亘る一連の祭礼を意味するもので、京都の代表的な祭礼として人々に親しまれた。

幾多の戦乱や時流の変遷を経て、現在は例祭と瑞饋祭のふたつの祭礼に分かれた形で継承されている北野祭。来たる令和九年の菅公千百二十五年半萬燈祭に向けて、かつての北野祭を、当宮の歴史伝統を重んじた意匠と天神信仰の尊厳に相応しい神事として再び蘇らせるため、様々な神賑行事を執り行う。

令和四年度 北野祭　行事日程

御手洗祭前夕饌
祭礼日　8月6日(土)　午後4時

御手洗祭
祭礼日　8月7日(日)　午前10時

北野萬燈会（境内夜間特別拝観）
日　程　8月6日(土)～14日(日)　計9日間
時　間　日没～午後8時（閉門）

平安京ゆかりの清め神事
～御手洗足つけ燈明神事～
日　程　8月6日(土)～14日(日)　計9日間
時　間　午前9時～午後8時（受付終了午後7時40分）
初穂料　500円

特別公開　国宝御本殿
～石の間通り抜け神事　御神宝・御装束の展覧～
日　程　8月11日(木)～14日(日)　計4日間
時　間　午後4時～午後8時（受付終了午後7時40分）
初穂料　1,000円

瑞饋祭
祭礼日　10月1日(土)～5日(水)

1日　午前9時　神幸祭
2日　午前10時　献茶祭（表千家奉仕）
3日　午後3時　甲御供奉饌（七保会奉仕）
4日　午前10時　還幸祭
5日　午後3時半　后宴祭
1日～4日　ずいき御輿奉納

北野聖廟法楽三二

―「法楽」としての囲碁・将棋―

北野文化研究所　室長　松原　史

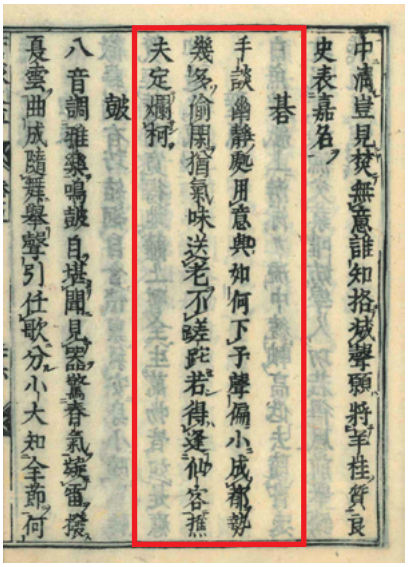
詩歌や読経や奏楽、その他さまざまな芸能をして神をお慰めし、天下泰平を祈ることを「法楽」という。中世から近世の北野天満宮において、法楽和歌や法楽連歌が盛んに行われたのも、絵巻や絵画が盛んに制作され奉納されたのも、境内で碁を打ち、将棋を指したのも、神に芸道の上達を祈るとともに、神様に喜んでいただくための一種の神事、「法楽」であると考え行われてきたのが、我が国ならではの信仰の形であるといえるだろう。

「文道大祖 風月本主」と称えられた御祭神菅原道真公（菅公）は、御霊信仰から発展し、優れた詩歌を残し能書家であったことから詩歌や書道の神として崇められ、ひいてはさまざまな芸能の神としても信仰を集めるようになった。

菅公が生きた時代、大陸において君子が嗜むべき四芸とされた「琴棋書畫」（琴と囲碁と書芸と画芸）。菅公自身も「囲碁」を嗜まれ、『菅家文草』の中に碁を題材とした漢詩を残している。また中世の当宮において、囲碁がしばしばおこなわれていたことが記録（『北野社家日記』）には残っており、桃山時代の碁打ちであり将棋指しでもあった本因坊算砂（一五五九～一六二三）も当宮を訪れ囲碁の対局を行なっている。今号では、君子の嗜みであり神に捧げる法楽でもあった北野天満宮における囲碁と将棋に関して概説したい。

菅公と囲碁

菅公が、昌泰三年（九〇〇）に醍醐天皇の求めに応じて制作し献上した全十二巻からなる『菅家文草』。その前半六巻には四六八首におよぶ自作の漢詩が、後半六巻にはさまざまな散文が収録されている。その中には囲碁に関する漢詩が五～六首収録されているという。



菅原道真『菅家文草』　原本：昌泰3年頃
刊本：元禄13年　北野天満宮蔵

巻五に収録されたその名もずばり「碁」という漢詩には、以下のよう内容が謳われている。

碁
手談幽静處（物静かな中、二人の手が語り合う）
用意興如何（打つ手を考えるのはなんと楽しいことか）
下子聲偏小（碁石を打つ音はとても小さいが）
成都勢幾多（都のような地が築かれる勢いは壮大なものだ）
偸閑猶気味（閑を偸んで打つ碁も趣があり）
送老不蹉跎（年を取っても碁を打っていれば耄碌しない）
若得逢仙客（もし碁を打ち合う仙人たちに逢うことができたなら）
樵夫定爛柯（かの樵夫のようにきっと斧の柄を爛らせてしまうだろう）

最後の一節は中国の古典『異述記』などで語られる囲碁（爛柯）に関する物語の中で、ある日木こりが森の中で碁を打つ童子に出会い熱心に見学していたところ、気がつくと斧の柄がぼろぼろになる程の時が経っていた、という内容を踏まえたものとなっている。囲碁の対局の情景描写から始まり、碁を打つ音、そして効能に逸話への言及までを行なった一首となっている。詩人の白居易もまた囲碁（爛柯）に関する詩を残しており、文人の嗜みであったことがうかがえる。

囲碁の歴史と本因坊算砂

囲碁の歴史は大変古く、中国にて起こり、日本への伝来には諸説あるが、隋書「倭国伝」に最も古い記録が残る。正倉院には聖武天皇御遺愛の碁盤が残されており、平安時代には、囲碁は宮廷での文化的教養として欠かせない技芸となる。『枕草子』や『源氏物語』にも囲碁への言及や対局の様子の描写があり、

平安後期には武士層にも愛好家が増えたという。鎌倉時代にも武士や僧侶を中心に上手も出て、安土・桃山時代に至り囲碁の隆盛期を迎えた。

安土桃山時代に最初の名人・初代本因坊算砂が誕生し、彼の出現により囲碁の技術が格段に高められるに至ったという。算砂は、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康とも知己を得て、秀吉は碁打ち衆に禄を与え、家康は家元制を設け、その上に碁所を置いた。

現代に続く囲碁の大立役者である本因坊算砂はまた、囲碁だけでなく将棋の対局の記録も残している。江戸幕府より扶持を支給され、将棋の家元制の一角を担った初代家元大橋宗桂と初代本因坊である算砂はしばしば将棋の対局を行なっていた。当時は今ほど碁打ちと将棋指しは区別されておらず、それぞれが両方の技能を発揮することができたとする説もある。二人の名人の対局は、その棋譜が多数残されており、近年でもその解釈が新たになされるなど人々の耳目を集めている。

北野天満宮における囲碁・将棋～当宮と本因坊算砂～

初代本因坊（本因坊算砂）肖像 寂光寺蔵

囲碁・将棋界のレジェンドといっても過言ではないであろう本因坊算砂は、慶長年間、何度も北野天満宮を訪れ、碁を打ち、酒宴に興じている。

例えば慶長五年二月十四日の『北野社家日記』では

十四日、天気快晴、今日本因坊・弥蔵不殘碁打御出也、振舞申、本因ゟ碁はん・こけ二給、

という記述があり、本因坊算砂が当宮を訪れ、碁を打ったことがわかる。また少し前の慶長四年三月には、算砂のライバルであり林家の初代家元であった林利玄も当宮を訪れ、本能寺衆らとともに碁を打つ様子が記されている。そのほかにも、さまざまな場面で当宮を訪れた人々と共に碁を打つ場面が散見される。

北野天満宮と本因坊算砂と連歌師の交流

元和四年十二月二十日の記録には、当日はどうやら雨の降る天気だったようであるが、里村昌琢・昌俱ら連歌師（いずれも里村紹巴の孫にあたる）と本因坊算砂や中村道碩といった碁打ちが勢揃いし、北野天満宮の祠官家である妙蔵院にて〝鳥うたふ〟夜明けごろまで酒を酌み交わした様子が記録されている。

廿日

一、今書昌琢・玄弥・昌俱・玄的・慶純・宗順・了俱・甚五郎、又本因坊・道碩・富碩・理齋妙蔵院伴ニ来られ、取持れ候也、鳥うたふ時分迄酒有之候也

『将碁馬寫』 曼殊院蔵

前号でも触れた通り、当宮の社僧であった祠官家や宮仕にとっての必修科目が連歌であり、そのためには古典への精通なども求められ、さまざまな文芸に精進していた。また神龍院で住職をしていた兼見の弟の梵舜（一五五三～一六三二）の日記には、鹿苑院や北野社には囲碁や将棋を愛好するものも多かったことが記されている。近世まで当宮の別当職を代々務め当宮と渾然一体であった曼殊院には『将碁馬寫』が残されており、将棋の駒の見本とされる駒作りに当宮が関わっていた可能性も指摘されている。

囲碁や将棋に家元制が確立するこの時代、境内で囲碁・将棋等を行うことは、ただ暇つぶしというわけではなく、神に捧げる、芸能により神を喜ばせる「法楽」という側面も持っていたことだろう。北野連歌会所にはさまざまな文化人が出入りしていたが、そのほかにも碁打ちや将棋指しなど、当宮を中心とした文化人サロンのようなものの存在が垣間見られる。

主要参考文献
『北野天満宮資料 社家日記第五』北野天満宮 昭和四十八年
『囲碁・将棋文化史展』国立国会図書館 昭和六十三年
古作 登「本因坊算砂の人物像と囲碁将棋界への技術的功績を再検証する ―囲碁将棋界の基礎を気づいた四百年前の「伝説の棋士」―」大阪商業大学アミューズメント産業研究所紀要 平成二十五年
ウェブサイト：国立国会図書館 本の万華鏡 第二十二回日本の囲碁―白と黒の戦い―

「雪月花の三庭苑」令和再興結願法要
清水寺で宮司ら参列し、厳修

清水寺御本堂内陣にて斎行された結願法要

京都市東山区の名刹、清水寺で四月二十七日、「雪月花の三庭苑」令和再興結願法要が妙満寺大川日仰貫首、当宮宮司らの参列の下、厳かに営まれた。

「雪月花の三庭苑」は、歌人・連歌師で貞門俳諧の祖、松永貞徳の作庭とされ、寺町二条の妙満寺（現在は左京区岩倉）の「雪の庭」、清水寺の「月の庭」、当宮の「花の庭」で、それぞれ成就院（成就坊）という塔頭に造られ、江戸期には京洛の名庭苑として名を馳せた。

当宮の「花の庭」だけは、明治の廃仏毀釈により成就坊が廃寺になり、庭も失われたが、令和九年に斎行する「菅公千百二十五年半萬燈祭」の記念事業の一環として梅苑内に約百五十年ぶりに再興、今年一月に再興奉告祭・記念式典を執り行い、盛大にお披露目をした。また妙満寺の「雪の庭」も改修工事を行い、三月に「令和の改修工事円成奉告法要」を営んでいる。

清水寺塔頭、成就院の「月の庭」は国指定の名勝であり、三庭苑が揃ったことで、この日の令和再興結願法要となった。法要は清水寺本堂内陣で森清範貫主が導師となって厳かに営まれ、参列した宮司も拝礼した。森貫主は「北野天満宮の花の庭が再興されたことで三つの庭が揃った。自然の美しさが見る人を感動させると思う」と話された。

なお「月の庭」は四月二十九日から五月五日まで特別公開もされた。

月の庭にて（宮司・清水寺 森貫主・妙満寺 大川貫首）

スーパーカー三十五台が集結、交通安全祈願
コロナ禍により三年ぶりの参拝

「牛」のエンブレムで知られるイタリアのランボルギーニを始めフェラーリ、ポルシェなどのスーパーカー三十五台が、五月二十二日当宮に集結し、各車のオーナーが交通安全祈願のため、御本殿に参拝した。

この催しは、御祭神である天神さまのお使いが「牛」であるという御神縁から、ランボルギーニを始めとするクラシックカー&スーパーカー愛好会（西川淳代表）の主催によるもの。六年前から毎年五月に参拝されていたが、令和元年、四回目を開催した後、コロナ禍によって中断しており、今回は実に三年ぶりの参拝となった。

絶好の好天の中、午前八時前から関西を中心に各地からスーパーカーが続々駐車場に集結。エンジンを止めて、まずは御本殿に昇殿参拝し、各々の交通安全を祈願した。

事前告知はしていなかったが「名車が集まっている」ということを知った多くのファンが駆けつけ、スマートフォンで写真撮影する人が相次ぎ、お目当ての車のオーナーに乗り心地などの質問を投げかける人もいた。

コロナ禍が落ち着いた状態にあるだけに、あるオーナーは「やっと天満宮に参拝でき、事故がないようにお祈りができてよかった」と話していた。

今回はコロナ禍ということもあり、規模を縮小して行ったが、来年こそは地元の上京警察署や交通安全協会などとも協力し、コロナ以前のように地域一体となって、この催しを盛り上げていく方向だ。

交通安全祈祷

勢ぞろいしたスーパーカー

北野祭保存会・北野神輿会

京丹後で三年ぶり御田植祭と田植え
京都産業大下出ゼミ生も三十人参加

斎田にて稔りを祈願

当宮崇敬団体である北野祭保存会・北野神輿会（井上経和会長）は、同北野天満宮神若会北野天神太鼓会（竹内勤会長）とともに五月二十九日当宮と御神縁深い京丹後市大宮町周枳（すき）の大宮賣（おおみやめ）神社（島谷泰夫宮司）に正式参拝し、御田植祭に参列した。さらに京都産業大学下出祐太郎ゼミ生らとともに田植えも行い終日活動した。

今回は令和元年に同神社に参拝して以来、コロナ禍によって参拝が叶わない状況が続き、約三年ぶりの御田植祭参列・田植え奉仕となった。

両会はこれまで、応仁の乱で途絶えた『北野祭』の復興に向けて様々な取り組みを行っており、大宮賣神社における御田植祭・田植えもそのような志の一環。さらにかつて大嘗祭の主基の地であった周枳の方々の協力を得て田植えと稲刈りを奉仕し、収穫した米を秋の瑞饋祭にお供えし、奉仕者への宮弁当として振る舞っている。また京都産業大下出ゼミ生は、勅祭北野祭について、その歴史や内容を調査研究し、当宮秋祭りである瑞饋祭にも奉仕するなど当宮祭典に携わっていただいている。

一行合わせて約九十人は、大宮賣神社宮司とともに、稲穂の稔りを祈願し、御本殿での御田植祭に参列、井上会長や下出教授らが次々に御神地に設けられた斎田に稲穂を挿して、よい米が出来るよう祈りを捧げた。御田植え後は、会員・学生らは大宮賣の氏子の方々との交流も深めた。

井上会長は「コロナ禍によって三年ぶりだったが、今年は学生の参加も多く盛大に執り行う事ができました。秋には抜穂祭もご奉仕し、収穫したお米で宮弁当をつくり、瑞饋祭にしっかり奉仕したいと思います」と話した。

大宮賣神社は、周枳神社の別名がある古社。当宮にも末社として周枳社が祀られ、当宮を流れる紙屋川では大嘗祭に先立つ荒見川祓が行われており、深い御神縁がある神社である。

御田植えの様子

轟け！ 天神太鼓

御縁日の奉納、二年三カ月ぶり再開
コロナ終息願い、バチさばき力強く

天神太鼓会 正式参拝

神若会北野天神太鼓会による御縁日天神太鼓奉納が五月二十五日夕刻、御本殿前の中庭で行われた。

恒例の御縁日太鼓奉納は、令和二年二月二十五日に行われたのを最後にコロナ禍によって中断しており、この日の奉納は実に二年三カ月ぶり。「世界に渦巻く疫病が早く収束してほしい」との願いを込めて、魂を込めた太鼓の音を御祭神に奉納し、境内一円に轟かせた。

奉納したのは、太鼓会の設立時から指導に当たっている野々口匠師範、太鼓会会長の竹内勤さんらメンバー十人。昇殿参拝して祈りを捧げた後、中庭で『三宅』『対流』『一心』の三曲を、久しぶりにもかかわらず息のあったバチさばきで演奏した。

御縁日での奉納は太鼓会の恒例行事。コロナ禍の状況を考慮し、この日の奉納も参拝者の密を避けるため告知をせずに実施。見守る参拝者は少なかったが、それでも太鼓の音が境内に響くと、少しずつ人も増え、足を止めて聴き入る参拝者もいた。

奉納を終えた竹内会長は「コロナの収束を願って力一杯叩いた。境内で清々しく演奏できて気持ち良かった。みんな同じ想いで奉納できたと思う」と話し、野々口師範も「今日の奉納のため二回ほど軽く練習しただけだったが、しっかりと叩けました。非常に嬉しい」と笑顔で語った。

今後の活動については、コロナの状況も見ながら、まずは神社行事のご奉仕から少しづつ再開していく予定である。

御本殿前で久々の太鼓奉納

コロナ禍の影響により三年ぶり
京都府支部当番で第五十六回全国天満宮梅風会総会開く

第56回全国天満宮梅風会総会

全国天満宮梅風会（会長橘重十九当宮宮司）の第五十六回全国総会が六月六日、菅公を御祭神とする全国天満宮の宮司を始め、神職・総代ら関係者約百七十人が参加し京都で開かれた。コロナ禍の影響により、会員が一堂に会し開催される総会は三年ぶりとなる。

夕刻からの総会に先立ち、午前は参加者全員が当宮御本殿に正式参拝。先ずは御神前にて大祓詞を奉唱、続いて当宮巫女四人が、神楽舞『紅わらべ』を奉奏した。この「紅わらべ」は、全国天満宮梅風会の企画によって創られた同会ゆかりの巫女舞。次に副会長・太宰府天満宮宮司西高辻信宏氏が玉串を奉り参列者全員が祈りを捧げた。

京都御所で高御座（たかみくら）拝観　皇室ゆかりの泉涌寺も拝観

境内で記念撮影を終えた参加者は、昼食後、当宮からバスに分乗して二班に分かれ、京都御所と御寺（みてら）泉涌寺を特別参観した。京都御所では特別公開以外では見ることのできない高御座（皇位継承儀式の即位の礼に用いられる玉座）を間近で拝観、また御寺泉涌寺では非公開となっている歴代天皇の尊牌が祀られている霊明殿を参拝した。

全国総会開催　今後の梅風会の有り様を見据えた場に

今回の全国総会に際しては、当会のコロナ後の有り方を見据え、斯界にて当会同様に同祭神奉祀神社で結成し、交流を行っている各神社連合会にもご案内を差し上げた。その中から本総会には、全国八幡宮連合総本部長・石清水八幡宮宮司田中恆清氏と全国賀茂社連合理事長・賀茂御祖神社宮司新木直人氏に来賓として御臨席賜り、ウェスティン都ホテル京都で開かれた。

橘会長が「三年ぶりの再会です。令和元年春に西高辻信良前会長から引き継ぎ、会長代行を経て会長となりましたが、コロナ禍の影響に

正式参拝 西高辻副会長による玉串拝礼

巫女舞「紅わらべ」奉奏

御寺泉涌寺　月輪御陵拝観

京都御所 紫宸殿の拝観

橘会長挨拶

祝辞を述べられる全国八幡宮連合田中総本部長　右は全国賀茂社連合新木直人理事長

より令和二年、三年と全国総会開催中止を余儀なくされ、漸く本日会長としてこの場に立たせて頂きました。西高辻前会長は五十数年の梅風会の歴史のうち三十年を越える年月に亘り大変な功績があり、令和元年の総会で満場一致で名誉会長に推挙されております。梅風会は昔から一堂に集って大いに語り合い、胸襟を開いて親交を深める場でもあります。本日の総会が会員相互の親睦を深め、コロナ後の梅風会の有り様や方向を示す場になれば幸いです」と挨拶した。

引き続き梅風会京都支部長・菅原院天満宮神社宮司の宇佐美伸二氏が当番地の代表として歓迎の挨拶をし、総会三十回と十回出席者四人（一人欠席）に会長から表彰状が手渡された。

続いて来賓の全国八幡宮連合総本部長の田中恆清氏が「全国から御祭神を同じくする神社に奉仕されている神職、手助けされている総代の方々が一堂に会す総会、とくに今回は三年ぶりですから積もる話もあろうかと思います。これを機に梅風会の更なる結束を図って頂き、益々発展されることを祈ります」と祝辞を述べられた。また祝電披露では先に述べた通り、コロナ後の当会の有り様を見据え、当会同様斯界発展のために活動する各神社連合会にも総会案内をし、全国春日連合会総裁・春日大社宮司花山院弘匡氏、全国清々会会長・八坂神社宮司野村明義氏、そして全国稲荷会より頂戴した祝電を披露した。

この後、会長が議長となって議事に入り、令和三年度の経過報告・収支会計報告、監事からの監査報告を満場一致で了承。さらに企画運営委員長の道明寺天満宮宮司南坊城光興理事が経過報告され「千百二十五年祭に向けて天神さまの美術展の開催を考えている。時期や場所など詳細はこれから企画運営委員会を中心に話し合い、来年の総会では報告出来るよう進めて参りたい」と述べ拍手で了承された。

懇親会乾杯のご挨拶をされる
西高辻名誉会長

次年度開催地
北海道 中村憲由樹支部長代理
山口貴生宮司によるご挨拶

次年度開催地は北の大地・北海道

次年度（第五十七回）の全国総会は北海道で開くという理事会報告が了解され、北海道支部支部長弥彦神社宮司中村憲由樹氏の代理として出席された手稲神社宮司山口貴生氏が「次年度開催は六月の下旬頃を考えております。それまでには、この疫病が収束し平和な生活が取り戻せることを願っています。ぜひ来年は御来道を」と挨拶された。最後に全員が起立し、聖寿の万歳を三唱し、総会は滞りなく幕を閉じた。

和やかに三年ぶりの懇親会

懇親会では、西高辻信宏副会長が開会の挨拶をされ、西高辻信良名誉会長の音頭で乾杯の杯を傾けた。

なお、二日目は希望者のみの参加で比叡山延暦寺と平安神宮を参拝。延暦寺では小鴨総務部長のご案内により根本中堂を参拝し、現在修復中の根本中堂檜皮葺大屋根などを見学させて頂くなど見聞を深めた。

コロナ禍落ち着く中、史跡御土居の「青もみじ」公開、活況呈す

「安心して散策できる」「塞ぎ込んだ心が晴れた」

展望台より国宝御本殿

史跡御土居「青もみじ苑」の公開が今年も四月九日から六月二十六日まで行われた。コロナ禍が落ち着いている中、「安心して散策できる」という参拝者が多く、平成二十七年の初公開以来の人気ぶりを見せた。

豊臣秀吉公が築いた当宮内の史跡御土居には約三百五十本のもみじがあるが、公開は紅葉の美しい秋と、梅苑開苑中の春の二回に限られていた。しかし、この季節以外に訪れた他府県の参拝者から「御土居の雰囲気に触れられず残念」とする声が年々高くなり、平成二十七年の四月下旬から、もみじの若葉が美しい季節に「青もみじ」として公開している。

「青もみじ」は、若楓として俳句の季語として使われ、昔から「青もみじ」をよく愛でた。兼好法師も『徒然草』の中で「卯月ばかりの若楓、すべて、よろずの花紅葉にもまさりてめでたきものなり」と、綴っている。

当宮の青もみじの公開は、史跡御土居の中という絶好の環境下にあるだけに「北野の青もみじ」の名ですぐに定着した。

御土居内を流れる紙屋川

そして今年、コロナ禍が落ち着きを見せる中、安心して散策できる絶好の場所としてテレビや新聞で報道されたこともあり、期間中の入苑者は二万人を越え、平成二十七年の初公開以来の人気ぶりを見せた。

もみじの若葉と朱色の鶯橋という絶妙のコントラストの中で記念写真を撮る人、その下を流れる紙屋川の清流を眺めながら散策する人も多かった。「コロナで長い間、外に出ることが出来ず、心が塞ぎ込んでいたが、御土居の青もみじに触れて心が晴れた」「ここならマスクを外して散策しても安心」という声も聞かれた。

朱塗りの鶯橋

多くの参拝者で賑わった青もみじ苑

京都北ロータリークラブ創立65周年記念事業フライヤー

ウスビ・サコ氏による基調講演

「歴史に学びこれからの京都を語ろう」をテーマに、京都北ロータリークラブ（増田康男会長〈当時〉）の創立六十五周年記念事業が、京都市内の大学に学ぶ学生らの参加を呼びかけ、五月二十九日当宮と上七軒歌舞練場を会場に開かれた。

当宮は天正の昔、豊臣秀吉公が千利休居士らを亭主として催した「北野大茶湯」ゆかりの地。境内には北野大茶湯ゆかりの遺構として、太閤秀吉が水を汲んだと伝わる「太閤井戸」が現存するなど、幾つもの歴史的名跡が遺る。

現在も毎年十二月一日は在洛の四家元二宗匠輪番奉仕による献茶祭が斎行され、京都の中でも茶文化とは最も深い関わりがあるのが当宮である。また門前花街の上七軒は、室町時代当宮の御本殿の一部が火災に見舞われ、再建された際に造営の残木で建てられた七軒の茶屋が始まりとされる京都最古の花街として知られる。

この日文道会館には記念行事のひとつとして開催される特別茶会に使われる「担い茶屋」による茶席が設けられた。参加した学生たちは、上七軒の芸舞妓のお点前で一服を楽しみ、裏千家の町田宗隆業躰（七月より京都北ロータリークラブ会長）から、当宮と茶の湯の御縁や茶の心について丁寧な解説を受けた。

茶席は四回に分けて行われ、神妙な表情でお茶を味わった学生たちは、宮司を始め神職の案内で今春新たに再興した梅苑「花の庭」や、公開中の史跡御土居の青もみじ苑を散策し、見ごろとなっている新緑のもみじを楽しんだ。

午後は上七軒歌舞練場に会場を移し、芸舞妓による日本舞踊披露の後、増田会長が「創立六十五周年の記念事業として学生の皆様の参加を頂いて本日の催しとなった。多様性が問われる時代に三人の先生による提言が、これからの京都をどうイノベートするかのヒントになれば幸いだ」と挨拶した。

次に京都精華大学前学長のウスビ・サコ氏による基調講演が行われた。西アフリカのマリ共和国出身のサコ氏は、学生時代京都北ロータリークラブの留学生として過ごし現在は同クラブ会員となっている。同氏は、自らのプロフィールを紹介しながら「多様性とは無理に合わせるものではない。京都の社会こそ多様性のモデルになるのでは」と指摘した。

続いて、ウスビ・サコ氏、同志社大学法学部教授の村田晃嗣氏、西陣和装学院学長の毛利ゆき子氏の三氏が登壇され「真の多様性と京都文化のイノベーション」と題するパネルディスカッションが行われた。

三氏が京都人気質や京都の持つ伝統文化の素晴らしさなどについて様々な観点から話し合い、「京都で学んだ良さは将来必ずわかる」「人口が減少していく中で、変化を恐れないことが伝統を守る上で大事」「増えていく異文化の人たちに伝統のエッセンスをいかに伝えるかが肝要」「文化遺産を守るためには法的裏付けがもっと必要」といった提言が出され「京都で学んでいる皆さん方に期待するところは大きい」と呼びかけた。

ご挨拶される京都北ロータリークラブ
会長　増田康男氏（当時）

裏千家町田宗隆業躰と上七軒芸舞妓による
お茶のお点前

ウスビ・サコ氏（中央）・村田晃嗣氏（右）
毛利ゆき子氏（左）によるパネルディスカッション

北野の光

斎行された祭典・行事
《四月～六月》

賣茶本流献茶式を斎行
江戸期の賣茶翁が茶祖

煎茶の賣茶本流献茶式を、四月十日午前十時から御本殿で斎行した。

賣茶本流は、賣茶翁の異名がついた江戸中期の高遊外を茶祖とする煎茶道で、昭和二十七年以来、毎年当宮で献茶式が執り行われている。

渡邊琢祥宗匠らが参列し、お祓いを受けた後、宗匠が煎茶を点て御神前に献上した。祝詞奏上の後、宗匠らが玉串拝礼し煎茶道の発展を祈願した。

祭典後、明月舎に茶席が設けられ、門人たちが煎茶を楽しんだ。

明祭（中祭）を斎行
無実の喜びを御神前に奉告

菅公の冤罪が晴れた日に当たる四月二十日、御本殿において午前十時から明祭を斎行し、御神前にその喜びを奉告した。

菅公は、従二位の位にあった昌泰四年（九〇一）正月、左大臣藤原時平の讒言で無実の罪を着せられ、九州・大宰府に大宰権帥として配流され、二年後の延喜三年（九〇三）二月二十五日、失意のうちに薨去された。

二十年後の延長元年（九二三）四月二十日、冤罪は晴れて右大臣に復され、位も正二位に昇進、左降の文書は、その日のうちに焼却された。

なお、菅公はその後、正暦四年（九九三）六月に正一位左大臣を、同年閏十月には太政大臣を追贈されている。

文子天満宮例祭
コロナ禍、今年も居祭で厳粛に斎行

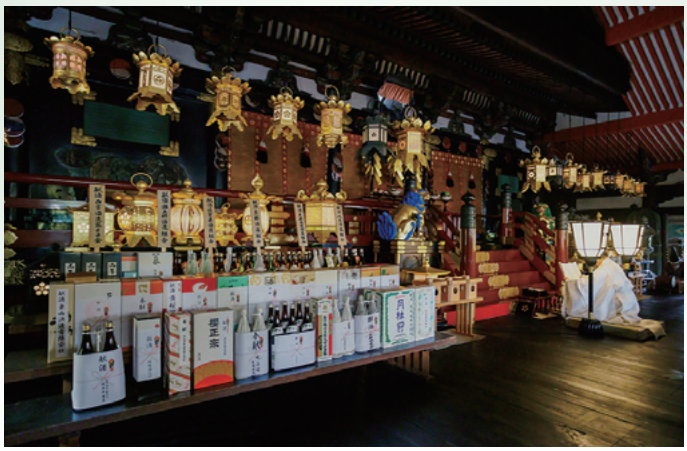
当宮の創建に携わった多治比文子が、自邸に菅公を祀ったことに由来する末社文子天満宮の例祭を四月十四日と十七日に斎行した。

御神霊を神輿に遷し、神職や西之京瑞饋神輿保存会の人たちによって同天満宮御旅所（上京区上ノ下立売通御前西入ル）まで賑やかな渡御が行われるのが通常だが、コロナ禍によって一昨年、昨年に続いて今年も残念ながら神輿渡御は中止となった。

このため文子天満宮の御社殿で、同保存会員らの参列の下、十四日午前十一時から神幸祭当日祭を、また十七日午後二時から還幸祭当日祭を居祭で厳粛に斎行した。

文子天満宮は、菅公の薨去後、「右近の馬場（現在の当宮鎮座地）に祀れ」との御神託を受けた文子が、最初に菅公をお祀りした宅地跡を霊地として建てられたが、明治初期に境内の現在地に遷された。例祭は、地域の人たちから「文子さん」「文子まつり」と呼ばれて親しまれている。

献酒祭
御神前に新酒供え業界の繁栄を祈願



酒造会社などから奉納された新酒をお供えし、五月十七日午前十一時から御本殿において献酒祭を斎行した。

室町時代、当宮神人に麹造りの特権（北野麹座）が与えられたことから酒造関係者の崇敬が篤く、今年も関西を中心にたくさんの酒造会社などから新酒が奉納された御神前で、酒造りの安全と業界の繁栄、関係者の無病息災を祈願した。

献酒頂いた酒造会社・酒造組合は次の通り。（順不同）

愛知酒造・暁酒造・今津酒造・大石酒造・大澤本家酒造・大関・太田酒造・菊正宗酒造・黄桜・北川本家・喜多酒造・北島酒造・北山酒造・木下酒造・京姫酒造・キンシ正宗・月桂冠・剣菱酒造・國産酒造・小山本家酒造灘浜福鶴蔵・齊藤酒造・櫻正宗・佐々木酒造・沢の鶴西日本支店・松竹梅酒造・招德酒造・城陽酒造・関酒造・宝酒造・辰馬本家酒造・玉乃光酒造・丹山酒造・長老・鶴正酒造・豊澤本店・浪乃音酒造・奈良豊澤酒造・日本盛・白鷹・白鶴酒造大阪支社・羽田酒造・林酒造・万代大澤醸造・東山酒造・平井商店・福德長酒類関西支店・藤居本家・藤岡酒造・伏見酒造組合・古川酒造・平和酒造合資会社・増田德兵衛商店・松井酒造・松瀬酒造・三宅本店・都鶴酒造・本野田酒造・矢尾酒造・安福又四郎商店・山本酒造店・山本本家・吉田酒造

摂社地主神社例祭

当宮創建以前から北野の地に御鎮座されている摂社地主神社の例祭を四月十六日午前十時から斎行した。

地主神社は、『続日本後記』の承和三年（八三六）の条に「遣唐使のために天神地祇（てんしんちぎ）を北野に祀る」との記述があり、遣唐使発遣のために全国六十余国に祀られている天神地祇を招聘し祈願した古社。

摂社火之御子社例祭「雷除大祭」斎行
中庭には早くも「茅の輪」お目見え

「雷除大祭」の呼称で知られる摂社火之御子社の例祭を六月一日午前四時から斎行した。

火之御子社は火雷神を祀り、当宮の御鎮座前から北野の地にあった古社。「北野の雷公」と称され、朝廷では雨乞いや豊作祈願などを行って篤く崇敬した。雷除けの信仰は今も根強く続いており、この日は電力会社や電気工事をする人、釣り人・ゴルフ愛好家などの参拝が多い。

祭典は開門前、暁闇の中、古式に則って火打ち石で浄火を点じて斎行し、雷除けと五穀豊穣を祈願した。お祓いをした御札・御守りは、午前六時半の開門と同時に参拝者に授与したが、参拝者が終日訪れ、雷除け信仰の篤さを伺わせた。

例年六月二十五日の「夏越天神」の大茅の輪（楼門）に合わせ御本殿前中庭に設ける背丈ほどの「茅の輪」をこの日から設置したため、コロナ収束などを願ってくぐり抜ける参拝者が多かった。

北野の地に鎮座の日　宮渡祭（中祭式）斎行

北野の現在地に当宮が鎮座された日に当たる六月九日、午前十時から御本殿において宮渡祭を斎行した。

大宰府で薨去された菅公の御神霊から天慶五年（九四二）、西ノ京に住む多治比文子に「北野の地に鎮まりたい」との御神託があったが、貧しかった文子は応えることができず、自宅近くにお祀りした。五年後の天暦元年（九四七）、近江比良宮の神主神良種の子、太郎丸にも同様の御神託があり、同年六月九日、文子・良種・北野朝日寺の僧最鎮らが力を合わせ、平安京の北西（乾）の現在地に御社殿を創建した

二條流の献茶式斎行

煎茶の二條流の献茶式が、六月十二日午前十一時から御本殿で斎行された。

煎茶道二條流は、明治元年に流祖水島雅荘によって神戸で創設された。

御本殿では、社中の約四十人が参列される中、七世二條雅瑛家元のご奉仕によって厳粛にお点前が行われ、神職の手によって御神前に煎茶が献上された。

式典の後、明月舎に茶席が設けられた。

季節の変わり目の無病息災を祈願　特殊神饌供え青柏祭を斎行　神恩に感謝

「北野四季祭」の一つとして古くから行われてきた季節の変わり目の神事である青柏祭を、六月十日午前十時から御本殿で斎行した。

ご飯を柏の葉に包んだ特殊神饌を御神前に供え、日々の神恩に感謝し、氏子崇敬者の無病息災を祈願した。

柏の葉は、古代より祭事用の器などに用いて神聖に扱われ、この日の特殊神饌は、形も美しい当宮独特のもの。

「大福梅」の梅の実採取　梅雨短く、最も早い六月中の土用干し開始

正月の縁起物「大福梅」の採取が、五月二十五日から始まった。

境内には約五十種・千五百本の梅の木があり、職員が数日がかりで約二・二トンの梅の実を採取し、樽に詰め塩漬けにして保管していた。

その梅の実の土用干しが、近畿地方が梅雨明けした翌日の六月二十九日から御本殿前の中庭で始まった。梅雨明け後の恒例行事だが、これまで六月中に梅雨が明けたことはなく、過去最も早い「土用干し」の干し始めとなった。

土用干しは、梅の実を夏の陽射しに当てカラカラになるまで干す作業。初日は、京都市内の最高気温三十五・六度（平年二十九・五度）という猛暑日となったが、神職・巫女らは蓆を敷いた台の上に、梅の実が重ならないよう広げる作業を行った。辺りには甘酸っぱい梅の香が漂い、参拝の修学旅行生らが次々足を止めて作業を見守っていた。

土用干しは、約四週間にわたり行われ、干上がった梅の実は、再び樽で塩漬けにされて保管。十一月に袋詰めの調製をし、十二月十三日の事始めから「大福梅」として参拝者に授与する。

「大福梅」は、招福息災の祈りを込め白湯に入れて頂く正月の縁起物。その起源は、天暦五年（九五一）疫病流行の折、罹患された村上天皇がこの茶を服され平癒されたとの故事にちなむ。

夏越の二神事　厄祓いと夏場の健康を祈願

夏越天神　御本殿で御誕辰祭厳かに斎行
楼門の「大茅の輪くぐり」賑わう

御祭神菅公の御生誕の日に当たる六月二十五日、御本殿において午前九時から御誕辰祭を厳かに斎行した。

菅公は、文章博士菅原是善公の第三子として、承和十二年（八四五）の六月二十五日京都で誕生され、延喜三年（九〇三）二月二十五日、配所の大宰府で薨去された。

この御神縁により、毎月二十五日を「天神さん」の御縁日とするが、とくに御生誕日の六月の御縁日は「夏越天神（なごしてんじん）」と呼ばれ、盛夏を控えての厄除けと夏場の健康を願う信仰が根付いている。

御本殿での御誕辰祭は、境内で採れたもぎたての梅の実などを御神前に供え、前夜より精進潔斎のために境内斎館に参籠・斎戒した宮司以下神職により厳かに斎行された。

楼門での「大茅（おおち）の輪くぐり」は、「夏越天神」の日の恒例行事。大茅の輪は直径五メートルという京都では最大級の大きさで、開門と同時に無病息災と夏場の健康を願う参拝者が次々とくぐり抜け、賑わった。

当時はコロナ禍の状況も落ち着いており、表参道などの露店も活況を呈し、絵馬所前では三年ぶりに猿回しがお目見え、参拝者の笑いを誘っていた。

この日の京都の最高気温は三十三度と真夏日の暑さとなり、境内に設置したミストシャワーが初稼働し、その下で涼を求める参拝者も見られた。

御本殿前の中庭
夏越の大祓式に約四百人が参列
半年間の穢れ祓い、無病息災を祈願

夏越の大祓式を、六月三十日午後四時から御本殿前の中庭で斎行、崇敬者・参拝者約四百人が参列した。

大祓式は、六月と十二月の晦日（みそか）に行われ、日頃無意識のうちに身についた罪や穢れを祓い清める古くからの神事。

神職・参列者が声を揃えて大祓詞（おおはらえことば）を奏上、全員が切麻（きりぬさ）にて邪気を祓った後、神職・神社役員に続いて神職の先導で参列者が中庭の茅の輪を古式通り三度くぐり、この半年間に身についた罪・穢れを祓い清め、元気に夏が過ごせるよう祈った。

氏子崇敬者が納めた人形や車形代なども唐櫃に入れ、神職が担いで茅の輪をくぐり祓った。

北野天満宮のこれからの祭典・行事《七月～十月》

七月二十五日
新茶奉献奉告祭

京都近隣の宇治・宇治田原・木幡・城陽・佐山・京田辺・醍醐・伏見・向島・綴喜・山城・南山城・信楽など、銘茶の各生産地で摘まれ奉納された新茶を御神前に供え、茶業の安全と発展を祈願する。

当宮と茶業との御縁は、天正十五年（一五八七）当宮境内で豊臣秀吉公により開かれた北野大茶湯の由縁に始まり、以来当宮は、茶業家からの信仰が殊に篤い。

八月六日～十四日
北野萬燈会・七夕ライトアップ

来る令和九年斎行の半萬燈祭の機運を昂揚するため行っている北野萬燈会。三光門前参道に、崇敬者からの奉賛提灯約千五百基に火が点され、御祭神に願いの灯りが届けられる。

また、平安京の天門に鎮座する当宮は、日・月・星の三辰信仰の聖地でもあり、天の神気の満ちる場所と考えられてきた。その境内一円に色とりどりに飾られた七夕笹を照明で照らし、幻想的な雰囲気の中夜間参拝を実施する

八月七日
御手洗祭

当宮では七夕神事を御手洗祭と称して斎行し、内陣に松風の硯・角盥・水差し・梶の葉をお供えする。

北野の四季祭の一つにも数えられるこの祭典は、北野祭の前儀とされ、祓いと清めを意味する重儀である。古くは祭典中に梶の葉に水を掛ける儀式があり、梶の葉が手の形に見えることから御手水を表しているといわれている。

八月十九日～二十八日
奉納図画展

夏休みの恒例となっている奉納図画展を、八月十九日午後より絵馬所にて開催し、地域の子供たちが描いた力作を展示公開する。

八月二十八日
奉納図画展授賞式

入賞者参列のもと、御本殿にて祭典を斎行し、優秀作品の授賞式を執り行う。

祭　事　暦（7月1日～10月5日）

《7月》

1日	午前10時	月首祭
12日	午前10時	當日祭
15日	午前10時	月次祭
25日	午前9時	月次祭
	午前11時	新茶奉献奉告祭
	午後4時半	夕神饌

《8月》　【赤字表記：北野祭祭礼】

1日	午前10時	月首祭
《北野御手水神事》		
6日	午後4時	御手洗祭前夕饌
7日	午前10時	御手洗祭
	午前10時半	天満宮講社奉賛活動現況奉告祭
14日	午前11時	学業大祭
15日	午前10時	月次祭
25日	午前9時	月次祭
	午後4時半	夕神饌
28日	午後3時	奉納図画展授賞式

《9月》

1日	午前10時	月首祭
3日		参籠
4日	午前10時	例祭・北野御霊会（大祭）
13日	午後4時	明月祭
15日	午前10時	月次祭
23日	午前10時	秋季皇霊祭遥拝式
24日	午前9時	神輿飾り
25日	午前9時	月次祭
	午後4時	夕神饌
26日	午後4時	瑞饋祭稚児奉仕者奉告祭

《10月》

《瑞饋祭》		
1日	午前9時	神幸祭　出御祭（本社）
2日	午前10時	献茶祭（御旅所）表千家宗匠奉仕
3日	午後3時	甲御供奉饌（御旅所）西ノ京七保会奉仕
4日	午前10時	還幸祭　出御祭（御旅所）
5日	午後3時半	后宴祭（本社）

月釜献茶（7月1日～9月30日）

《7月》

1日	献茶祭保存会	鈴木　宗博	（明月舎）
10日	梅文会	各流派合同茶会	（松向軒）
15日	献茶祭保存会	藪内燕庵社中	（明月舎）
	松向軒保存会	休　　会	（松向軒）
24日	紫芳会	休　　会	（松向軒）

《8月》

1日	献茶祭保存会	半床庵社中	（明月舎）
14日	梅文会	休　　会	（松向軒）
15日	献茶祭保存会	休　　会	（明月舎）
	松向軒保存会	休　　会	（松向軒）
28日	紫芳会	今村　宗幸	（松向軒）

《9月》

1日	献茶祭保存会	前田　宗音	（明月舎）
11日	梅文会	裏千家清風会	（松向軒）
15日	献茶祭保存会	多門　宗粒	（明月舎）
	松向軒保存会	金澤　宗達	（松向軒）
25日	紫芳会	鬼塚　宗節	（松向軒）

九月四日
例祭【大祭】・北野御霊会

永延元年（九八七）一條天皇が初めて北野祭を勅祭として斎行された由縁による、一年で最も重要な祭典。

前日より参籠・潔斎した宮司以下神職が御本殿の扉を開き、雅楽の調べの中神饌を供し祝詞を奏上する。

引き続いて比叡山延暦寺一山出仕の僧侶たちが、御本殿内に設けられる密壇の前で法華三昧を法要し、御祭神の御霊和（みたまなご）めと疫病退散を祈り上げる。

十月一日～五日
瑞饋祭（ずいきまつり）

菅公薨去後、大宰府に随行した北野の神人が、京都へ戻って始めたとされる秋の豊穣祭。かつての北野祭に伴う村上天皇御寄進「第一鳳輦」、一條天皇御寄進「葱華輦」など、絢爛豪華な渡御列の一部が残り、期間中は表千家ご奉仕による献茶祭、七保会ご奉仕による甲御供奉饌等が行われる。また、御旅所に奉納される「ずいき御輿」は、西ノ京瑞饋神輿保存会の人たちによって造られ、四日に氏子地域を巡行する。

京都 平安京の天門

ようこそ 修学旅行の聖地 北野天満宮へ

コロナ禍落ち着き、三年ぶり修学旅行生の昇殿参拝復活
一日四十三クラスが祈りを捧げた日も

新型コロナウイルス感染症が猛威を振るった令和二年、三年の修学旅行生の昇殿参拝は、ほぼ中止となっていたが、今年に入り、コロナ禍の落ち着きとともに二月以降少しずつ参拝が増え始めた。

五月には一日四十三クラスの参拝日もあるなど、コロナ禍前の水準近くまで学校数・クラス数ともに増え、久しぶりに境内に活気が戻ってきた。これはコロナの状態が落ち着いてきたことによるものだが、境内は三年ぶりに生徒・学生の弾んだ声に包まれ、修学旅行の聖地復活を印象づけた。

御本殿で学業成就祈願 修学旅行昇殿参拝

天神さまの御加護で、ご祈願の成就を

「志望校に合格を」「学力向上を」など天神さまの御加護を祈る中学生を中心とする修学旅行生の昇殿参拝は春と秋に集中しており、中でも春はとくに多い。

しかしコロナ禍の流行とともに、修学旅行を取りやめる学校も多く、この二年間、例年訪れていた学校の参拝も途絶えた。ところが今年に入り、二月中旬に一校が訪れたのを皮切りに徐々に増えはじめ、御本殿前は、昇殿参拝の順番を待つ生徒たちで賑わった。

二月から六月までに昇殿参拝したクラス数は、二月二クラス（令和元年十一クラス）、三月十クラス（同三十三クラス）、四月百八クラス（同三百四十九クラス）、五月五百八十二クラス（同七百七十六クラス）、六月四百七十八クラス（同六百九十一クラス）で、計千百八十クラス（同千八百六十クラス）となった。さらに例年であれば、参拝が少なくなる七月も初旬で百二十クラスあり、コロナ禍前の参拝者数が戻ってきた。

修学旅行の参拝スタイルの多様化により、クラスごとの昇殿参拝のほか、バスやタクシーを使って自由参拝する修学旅行生が増えたのも今年の特徴であった。

石川県の女子中学生に付き添った教師は「子どもたちが来年受験なので何としてもお参りしたかった。ほっとしました。」とコロナ禍が落ち着いて無事参拝出来たことを喜んでいた。

撫牛を撫でながら一緒に記念写真を撮ったり、校外学習の一環として神職にインタビューをしたりと、コロナ禍前と同様の賑やかな境内風景が毎日のように見られた。

修学旅行参拝者数

（令和四年二月一日～七月十五日）但し、お申し出を頂いた数

二月	昇殿参拝	二校	二クラス	自由参拝 二一校
三月	昇殿参拝	六校	一〇クラス	自由参拝 九二校
四月	昇殿参拝	三五校	一〇八クラス	自由参拝 一一七校
五月	昇殿参拝	二三二校	五八二クラス	自由参拝 四〇二校
六月	昇殿参拝	二二八校	四七八クラス	自由参拝 三七四校
七月	昇殿参拝	六五校	一二〇クラス	自由参拝 七八校
合計	昇殿参拝	五六九校	一三〇〇クラス	自由参拝 一〇八四校

此の度の参拝を心の支えとされ、
また天神さまの御加護によりご祈願の成就をお祈り申し上げます。

天神様に合格祈願

学生たちの活気にあふれる境内

修学旅行のひとこま

御本殿へと参拝に向かう学生たち

お守りや御朱印を受ける学生たち

撫牛に願いを

修学旅行特別昇殿参拝学校一覧（順不同）

●宮城県

古川学園中学校　2クラス
古川学園高等学校　2クラス

●茨城県

いわき市立勿来第二中学校　1クラス
伊達市立松陽中学校　1クラス
つくば市立みどりの学園義務教育学校　3クラス
つくば市立谷田部中学校　4クラス
つくば市立竹園東中学校　6クラス
つくば市立吾妻中学校　3クラス
つくば市立谷田部東中学校　6クラス
つくば市立秀峰筑波義務教育学校　4クラス
稲敷市立東中学校　2クラス
つくばみらい市立伊奈中学校　5クラス
阿見町立竹来中学校　4クラス
笠間市立みなみ学園義務教育学校　1クラス
牛久市立牛久第三中学校　4クラス
牛久市立ひたち野うしく中学校　4クラス
結城市立結城南中学校　4クラス
古河市立古河第二中学校　6クラス
坂東市立岩井中学校　1クラス
桜川市立岩瀬東中学校　2クラス
桜川市立大和中学校　2クラス
桜川市立桃山学園　2クラス
桜川市立岩瀬西中学校　3クラス
小美玉市立小川北義務教育学校　2クラス
常総市立水海道西中学校　5クラス
常総市立石下中学校　3クラス
水戸市立常澄中学校　3クラス
水戸市立笠原中学校　7クラス
水戸市立第四中学校　3クラス
水戸市立第一中学校　2クラス
水戸市立内原中学校　2クラス
筑西市立下館中学校　3クラス
筑西市立関城中学校　3クラス
筑西市立下館北中学校　1クラス
筑西市立明野中学校　3クラス
筑西市立協和中学校　4クラス
土浦市立土浦第六中学校　3クラス
城里町立桂中学校　1クラス
城里町立常北中学校　3クラス
龍ケ崎市立龍ケ崎中学校　1クラス
ひたちなか市立那珂湊中学校　3クラス
ひたちなか市立勝田第一中学校　2クラス
ひたちなか市立田彦中学校　2クラス
笠間市立岩間中学校　2クラス
鹿嶋市立平井中学校　2クラス
常陸太田市立峰山中学校　1クラス
常陸太田市立世矢中学校　1クラス
常陸太田市立金砂郷中学校　2クラス
常陸太田市立水府中学校　1クラス
常陸大宮市立明峰中学校　2クラス
常陸大宮市立第二中学校　2クラス
水戸市立飯富中学校　1クラス
水戸市立第五中学校　1クラス
茨城町立青葉中学校　3クラス
大洗町立第一中学校　1クラス
大洗町立南中学校　1クラス
東海村立東海中学校　1クラス
東海村立東海南中学校　2クラス
那珂市立瓜連中学校　2クラス
那珂市立第二中学校　2クラス
那珂市立第一中学校　1クラス
那珂市立第三中学校　2クラス
日立市立助川中学校　4クラス
日立市立豊浦中学校　2クラス
日立市立滑川中学校　4クラス
日立市立河原子中学校　1クラス
日立市立大久保中学校　5クラス

●栃木県

高根沢町立阿久津中学校　6クラス
大田原市立湯津上中学校　1クラス
矢板市立矢板中学校　4クラス
矢板市立片岡中学校　2クラス
作新学院中等部　5クラス
宇都宮市立若松原中学校　2クラス
下野市立南河内第二中学校　1クラス
宇都宮市立横川中学校　3クラス
宇都宮市立田原中学校　1クラス
宇都宮市立豊郷中学校　2クラス
宇都宮市立宝木中学校　2クラス
宇都宮市立雀宮中学校　1クラス
宇都宮市立星が丘中学校　3クラス
宇都宮市立姿川中学校　1クラス
宇都宮市立泉が丘中学校　5クラス
宇都宮市立城山中学校　1クラス
宇都宮市立河内中学校　4クラス
宇都宮市立宮の原中学校　5クラス
宇都宮市立旭中学校　3クラス
宇都宮市立晃陽中学校　1クラス
宇都宮市立鬼怒中学校　1クラス
宇都宮市立清原中学校　1クラス
壬生町立南犬飼中学校　3クラス
野木町立野木第二中学校　3クラス
下野市立国分寺中学校　3クラス
上三川町立上三川中学校　2クラス
上三川町立明治中学校　1クラス
鹿沼市立加蘇中学校　1クラス
小山市立大谷中学校　6クラス
小山市立間々田中学校　5クラス
小山市立小山第三中学校　5クラス
小山市立桑中学校　4クラス
小山市立小山第二中学校　2クラス
小山市立小山城南中学校　4クラス
真岡市立久下田中学校　3クラス
真岡市立山前中学校　1クラス
足利市立山辺中学校　1クラス
栃木市立皆川中学校　4クラス
栃木市立東陽中学校　1クラス
栃木市立藤岡中学校　1クラス
栃木市立寺尾中学校　1クラス
那珂川町立馬頭中学校　2クラス
日光市立藤原中学校　1クラス
日光市立東原中学校　1クラス
市貝町立市貝中学校　1クラス
茂木町立茂木中学校　1クラス
真岡市立真岡中学校　3クラス
栃木市立大平中学校　3クラス
宇都宮市立陽南中学校　2クラス
小山市立乙女中学校　3クラス
宇都宮市立瑞穂野中学校　3クラス

●群馬県

安中市立第一中学校　3クラス
安中市立第二中学校　3クラス
安中市立松井田北中学校　1クラス
館林市立第二中学校　3クラス
桐生市立広沢中学校　1クラス
中之条町立中之条中学校　3クラス
渋川市立子持中学校　2クラス
前橋市立木瀬中学校　2クラス
前橋市立元総社中学校　1クラス
前橋市立粕川中学校　1クラス
藤岡市立東中学校　2クラス
板倉町立板倉中学校　1クラス
邑楽町立邑楽中学校　2クラス
みどり市立大間々中学校　1クラス
館林市立多々良中学校　4クラス
桐生市立新里中学校　2クラス
桐生市立川内中学校　2クラス
桐生市立相生中学校　3クラス
嬬恋村立嬬恋中学校　2クラス
渋川市立北橋中学校　3クラス
沼田市立沼田中学校　2クラス
沼田市立白沢中学校　1クラス
沼田市立利根中学校　1クラス
前橋市立明桜中学校　1クラス
前橋市立鎌倉中学校　1クラス
前橋市立桂萱中学校　1クラス
前橋市立第六中学校　1クラス
前橋市立宮城中学校　1クラス
太田市立木崎中学校　3クラス
千代田町立千代田中学校　3クラス
大泉町立南中学校　3クラス
邑楽町立邑楽南中学校　3クラス

●埼玉県

さいたま市立川通中学校　2クラス
行田市立西中学校　2クラス
さいたま市立東浦和中学校　2クラス
さいたま市立美園中学校　1クラス
杉戸市立広島中学校　1クラス
蓮田市立黒浜西中学校　1クラス
越谷市立南中学校　2クラス
吉川市立南中学校　2クラス
越谷市立西中学校　4クラス
深谷市立川本中学校　1クラス
神川町立神川中学校　2クラス
さいたま市立与野西中学校　1クラス
上尾市立太平中学校　1クラス
さいたま市立三室中学校　2クラス
三郷市立瑞穂中学校　1クラス
所沢市立中央中学校　1クラス
白岡町立篠津中学校　3クラス
上尾市立南中学校　2クラス
八潮市立八幡中学校　2クラス
さいたま市立尾間木中学校　1クラス
越谷市立北中学校　2クラス
さいたま市立木崎中学校　1クラス
さいたま市立本太中学校　1クラス
さいたま市立城南中学校　3クラス
さいたま市立春野中学校　5クラス
さいたま市立上大久保中学校　3クラス
さいたま市立与野南中学校　1クラス
さいたま市立八王子中学校　1クラス
さいたま市立大谷場中学校　1クラス
さいたま市立内谷中学校　3クラス
さいたま市立宮原中学校　3クラス
越谷市立千間台中学校　5クラス
越谷市立北中学校　3クラス
加須市立加須西中学校　2クラス
狭山市立堀兼中学校　3クラス
鴻巣市立鴻巣西中学校　2クラス
三郷市立栄中学校　2クラス
三郷市立前川中学校　1クラス
志木市立志木中学校　5クラス
春日部市立大沼中学校　2クラス
上尾市立大谷中学校　1クラス

上尾市立大石中学校 1クラス
新座市立第六中学校 1クラス
深谷市立南中学校 1クラス
深谷市立明戸中学校 1クラス
川口市立安行中学校 4クラス
川口市立小谷場中学校 3クラス
川口市立戸塚西中学校 3クラス
宮代町立須賀中学校 2クラス
入間市立金子中学校 2クラス
本庄第一中学校 1クラス
さいたま市立指扇中学校 1クラス
さいたま市立大宮南中学校 2クラス
羽生市立西中学校 3クラス
さいたま市立白幡中学校 4クラス
越谷市立新栄中学校 1クラス
越谷市立栄進中学校 1クラス
越谷市立大袋中学校 2クラス
加須市立大利根中学校 2クラス
久喜市立鷲宮中学校 1クラス
熊谷市立玉井中学校 1クラス
熊谷市立三尻中学校 2クラス
熊谷市立熊谷東中学校 2クラス
熊谷市立別府中学校 2クラス
熊谷市立富士見中学校 2クラス
戸田市立戸田東中学校 1クラス
戸田市立新曽中学校 1クラス
戸田市立美笹中学校 3クラス
鴻巣市立吹上北中学校 1クラス
三郷市立北中学校 2クラス
三郷市立南中学校 1クラス
春日部市立豊春中学校 3クラス
春日部市立春日部中学校 1クラス
春日部市立武里中学校 2クラス
春日部市立緑中学校 1クラス
上尾市立原市中学校 1クラス
上尾市立西中学校 2クラス
新座市立第五中学校 1クラス
深谷市立花園中学校 1クラス
深谷市立上柴中学校 2クラス
川口市立安行東中学校 2クラス
川口市立岸川中学校 1クラス
川口市立在家中学校 1クラス
川口市立戸塚中学校 5クラス
川口市立芝東中学校 1クラス
川口市立南中学校 1クラス
川口市立上青木中学校 1クラス
川口市立榛松中学校 3クラス
川口市立幸並中学校 1クラス
川口市立青木中学校 3クラス
川口市立神根中学校 1クラス
川口市立東中学校 3クラス
川口市立北中学校 5クラス
川口市立八幡木中学校 2クラス
川口市立鳩ヶ谷中学校 2クラス
川口市立領家中学校 2クラス
秩父市立荒川中学校 1クラス
入間市立西武中学校 1クラス
八潮市立潮止中学校 1クラス
杉戸町立杉戸中学校 2クラス
伊奈町立伊奈中学校 2クラス
蓮田市立蓮田中学校 3クラス
和光市立大和中学校 3クラス
和光市立第二中学校 3クラス
蕨市立第二中学校 1クラス
越谷市立北陽中学校 2クラス
上尾市立東中学校 2クラス
さいたま市立柏陽中学校 1クラス
越谷市立東中学校 3クラス
久喜市立栗橋西中学校 2クラス
春日部市立春日部南中学校 2クラス
入間市立藤沢中学校 3クラス
さいたま市立七里中学校 2クラス
さいたま市立与野東中学校 3クラス
吉川市立中央中学校 2クラス
上尾市立瓦葺中学校 2クラス
さいたま市立三橋中学校 1クラス
さいたま市立日進中学校 1クラス
行田市立長野中学校 3クラス
春日部市立豊野中学校 2クラス
さいたま市立大原中学校 2クラス
さいたま市立岸中学校 3クラス
羽生市立東中学校 4クラス
春日部市立大増中学校 1クラス
さいたま市立土呂中学校 1クラス
越谷市立中央中学校 1クラス
鴻巣市立赤見台中学校 1クラス
鴻巣市立鴻巣西中学校 1クラス
越谷市立中央中学校 1クラス
さいたま市立土呂中学校 1クラス
松伏町立松伏中学校 1クラス
三郷市立早稲田中学校 2クラス
さいたま市立田島中学校 3クラス

●千葉県

大多喜町立大多喜中学校 2クラス
印西市立滝野中学校 3クラス
浦安市立日の出中学校 4クラス
浦安市立入船中学校 3クラス
我孫子市立我孫子中学校 1クラス
鎌ヶ谷市立第四中学校 2クラス
鎌ヶ谷市立鎌ヶ谷中学校 1クラス
香取市立栗源中学校 1クラス
佐倉市立根郷中学校 3クラス
横芝光町立光中学校 3クラス
山武市立成東中学校 3クラス
市川市立第一中学校 2クラス
習志野市立第六中学校 1クラス
習志野市立第一中学校 1クラス
松戸市立河原塚中学校 1クラス
松戸市立金ヶ作中学校 2クラス
松戸市立新松戸南中学校 2クラス
松戸市立第三中学校 1クラス
成田市立久住中学校 2クラス
成田市立公津の杜中学校 4クラス
船橋市立八木が谷中学校 2クラス
大網白里市立大網中学校 2クラス
東金市立東中学校 5クラス
柏市立光ヶ丘中学校 1クラス
柏市立柏の葉中学校 3クラス
柏市立中原中学校 2クラス
柏市立風早中学校 3クラス
柏市立柏第四中学校 1クラス
柏市立第二中学校 1クラス
白井市立桜台中学校 2クラス
白井市立大山口中学校 2クラス
富津市立天羽中学校 2クラス
野田市立南部中学校 1クラス
野田市立岩名中学校 5クラス
野田市立福田中学校 2クラス
野田市立北部中学校 4クラス
野田市立第二中学校 1クラス
野田市立第一中学校 4クラス
流山市立南部中学校 3クラス
流山市立おおたかの森中学校 2クラス
流山市立北部中学校 3クラス
流山市立常盤松中学校 1クラス
流山市立東深井中学校 1クラス
印西市立印西中学校 1クラス
印西市立木刈中学校 3クラス
我孫子市立久寺家中学校 1クラス
我孫子市立湖北台中学校 1クラス
横芝光町立横芝中学校 3クラス
山武市立成東中学校 1クラス
市原市立ちはら台西中学校 4クラス
習志野市立第四中学校 4クラス
松戸市立第一中学校 4クラス
松戸市立古ヶ崎中学校 1クラス
松戸市立牧野原中学校 3クラス
松戸市立第五中学校 3クラス
松戸市立根木内中学校 2クラス
松戸市立第二中学校 3クラス
松戸市立常盤平中学校 2クラス
松戸市立小金中学校 1クラス
松戸市立第六中学校 2クラス
松戸市立六実中学校 3クラス
千葉市立さつきが丘中学校 2クラス
千葉市立花園中学校 3クラス
千葉市立みつわ台中学校 2クラス
千葉市立白井中学校 1クラス
船橋市立大穴中学校 2クラス
柏市立逆井中学校 3クラス
柏市立高柳中学校 2クラス
柏市立富勢中学校 3クラス
柏市立柏第三中学校 2クラス
柏市立松葉中学校 2クラス
柏市立西原中学校 3クラス
柏市立大津ヶ丘中学校 4クラス
柏市立南部中学校 1クラス
柏市立柏中学校 1クラス
柏市立手賀中学校 1クラス
富里市立富里中学校 6クラス
野田市立東部中学校 2クラス
流山市立西初石中学校 2クラス
流山市立南流山中学校 1クラス

●東京都

昭島市立福島中学校 1クラス
東京学芸大学附属世田谷中学校 1クラス
東京都立本所工業高等学校 1クラス
小平市立小平第三中学校 1クラス
葛飾区立立石中学校 2クラス
府中市立府中第二中学校 3クラス
貞静学園高等学校 5クラス

●神奈川県

伊勢原市立伊勢原中学校 7クラス
横浜市立丸山台中学校 1クラス
横浜市立菅田中学校 2クラス
横浜市立みたけ台中学校 2クラス
横浜市立矢向中学校 2クラス
横浜市立保土ヶ谷中学校 1クラス
横浜市立岩井原中学校 1クラス
横浜市立新井中学校 3クラス
横浜市立田奈中学校 1クラス
小田原市立城山中学校 3クラス
小田原市立城南中学校 2クラス
川崎市立塚越中学校 4クラス
川崎市立中野島中学校 3クラス
川崎市立住吉中学校 2クラス
藤沢市立六会中学校 3クラス
藤沢市立鵠沼中学校 2クラス
川崎市立宮崎中学校 4クラス
川崎市立宮前平中学校 1クラス

川崎市立犬蔵中学校 1クラス
川崎市立平中学校 2クラス
川崎市立野川中学校 3クラス
川崎市立有馬中学校 1クラス
川崎市立御幸中学校 3クラス
川崎市立南河原中学校 2クラス
川崎市立西高津中学校 1クラス
川崎市立高津中学校 3クラス
川崎市立橘中学校 4クラス
川崎市立東高津中学校 3クラス
川崎市立川崎中学校 2クラス
川崎市立大師中学校 2クラス
川崎市立渡田中学校 2クラス
川崎市立川中島中学校 4クラス
川崎市立臨港中学校 3クラス
川崎市立富士見中学校 3クラス
川崎市立生田中学校 3クラス
川崎市立稲田中学校 3クラス
川崎市立菅中学校 1クラス
川崎市立南生田中学校 4クラス
川崎市立枡形中学校 1クラス
川崎市立井田中学校 3クラス
川崎市立西中原中学校 3クラス
川崎市立金程中学校 4クラス
川崎市立西生田中学校 2クラス
川崎市立柿生中学校 3クラス
川崎市立長沢中学校 2クラス
川崎市立白鳥中学校 4クラス
藤沢市立秋葉台中学校 1クラス
藤沢市立善行中学校 2クラス
藤沢市立大庭中学校 1クラス
藤沢市立御所見中学校 1クラス

●新潟県

柏崎市立北条中学校 1クラス

●富山県

富山市立和合中学校 1クラス
富山市立堀川中学校 2クラス
龍谷富山高等学校 1クラス

●石川県

加賀市立山代中学校 4クラス
小松市立芦城中学校 4クラス

●山梨県

甲斐市立竜王北中学校 3クラス
山梨市立笛川中学校 1クラス
笛吹市立御坂中学校 3クラス
富士吉田市立富士見台中学校 1クラス
甲斐市立双葉中学校 5クラス
甲府市立上条中学校 4クラス
甲府市立南西中学校 2クラス
甲府市立城南中学校 1クラス
甲府市立北中学校 1クラス
甲府市立東中学校 5クラス
甲府市立南中学校 3クラス
都留市立都留第二中学校 3クラス
都留市立都留第一中学校 2クラス
組合立河口湖南中学校 4クラス
富士吉田市立明見中学校 2クラス
富士吉田市立吉田中学校 5クラス

●長野県

松本第一高等学校 2クラス
安曇野市立明科中学校 2クラス
高森町立高森中学校 4クラス
中川村立中川中学校 2クラス
飯島町立飯島中学校 1クラス
下諏訪町立下諏訪社中学校 1クラス
小谷村立小谷中学校 1クラス
阿南町立阿南第二中学校 1クラス
飯田市立竜峡中学校 1クラス
松本市立会田中学校 1クラス
須坂市立相森中学校 2クラス
大町市立第一中学校 1クラス
長野市立戸隠中学校 1クラス
飯田市立遠山中学校 1クラス
茅野市立東部中学校 2クラス
長野市立信更中学校 1クラス
須坂市立東中学校 1クラス

●岐阜県

多治見西高等学校 1クラス

●静岡県

掛川市立北中学校 5クラス
菊川市立岳洋中学校 2クラス
湖西市立白須賀中学校 1クラス
袋井市立袋井中学校 2クラス
袋井市立浅羽中学校 1クラス
磐田市立豊田中学校 5クラス
磐田市立豊岡中学校 3クラス
磐田市立磐田第一中学校 3クラス
浜松市立開成中学校 4クラス
浜松市立蜆塚中学校 4クラス
浜松市立南陽中学校 1クラス
伊東市立宇佐美中学校 2クラス
伊東市立門野中学校 2クラス
伊東市立南中学校 2クラス
伊東市立北中学校 2クラス
伊東市立対島中学校 2クラス
伊豆の国市立大仁中学校 2クラス
伊豆の国市立韮山中学校 3クラス
伊豆市立土肥小中一貫校 1クラス
伊豆市立修善寺中学校 3クラス
伊豆市立中伊豆中学校 1クラス
掛川市立桜が丘中学校 2クラス
御前崎市立浜岡中学校 1クラス
御殿場市立原里中学校 4クラス
御殿場市立西中学校 3クラス
御殿場市立南中学校 5クラス
御殿場市立御殿場中学校 2クラス
三島市立山田中学校 1クラス
三島市立中郷中学校 2クラス
三島市立錦田中学校 3クラス
三島市立中郷西中学校 1クラス
三島市立北中学校 6クラス
小山町立須走中学校 1クラス
小山町立小山中学校 2クラス
清水町立清水中学校 3クラス
清水町立南中学校 3クラス
長泉町立長泉中学校 4クラス
沼津市立第三中学校 2クラス
沼津市立第一中学校 2クラス
沼津市立戸田中学校 1クラス
沼津市立第五中学校 4クラス
沼津市立片浜中学校 2クラス
沼津市立金岡中学校 4クラス
沼津市立愛鷹中学校 3クラス
沼津市立大岡中学校 4クラス
沼津市立今沢中学校 3クラス
沼津市立第四中学校 2クラス
焼津市立豊田中学校 5クラス
焼津市立焼津中学校 3クラス
焼津市立大村中学校 2クラス
裾野市立西中学校 3クラス
裾野市立深良中学校 1クラス
静岡市立服織中学校 4クラス
静岡英和女学院中学校 3クラス
静岡市立籠上中学校 2クラス
静岡市立南中学校 3クラス
静岡市立高松中学校 4クラス
静岡市立蒲原中学校 2クラス
静岡市立清水興津中学校 3クラス
静岡市立清水第三中学校 2クラス
静岡市立清水飯田中学校 2クラス
静岡市立清水第四中学校 3クラス
静岡市立清水第六中学校 2クラス
函南町立東中学校 3クラス
島田市立金谷中学校 4クラス
藤枝市立岡部中学校 3クラス
藤枝市立広幡中学校 2クラス
藤枝市立西益津中学校 3クラス
藤枝市立大洲中学校 1クラス
富士宮市立柚野中学校 1クラス
富士宮市立富士根南中学校 6クラス
富士宮市立西富士中学校 1クラス
富士宮市立富士宮第四中学校 6クラス
富士宮市立富士宮第二中学校 4クラス
富士宮市立北山中学校 2クラス
富士宮市立富士宮第三中学校 1クラス
富士宮市立富士宮第一中学校 6クラス
富士市立富士川第一中学校 2クラス
富士市立岩松中学校 3クラス
富士市立富士南中学校 8クラス
富士市立大淵中学校 4クラス
富士市立田子浦中学校 1クラス
富士市立富士中学校 4クラス
富士市立吉原第三中学校 3クラス
富士市立富士川第二中学校 2クラス
富士市立元吉原中学校 2クラス
伊豆の国市立長岡中学校 2クラス
三島市立北上中学校 3クラス
三島市立南中学校 4クラス
沼津市立門池中学校 1クラス
沼津市立第二中学校 2クラス
函南町立函南中学校 2クラス

●愛知県

東海医療科学専門学校 1クラス

●三重県

紀北町立赤羽中学校 1クラス

●京都府

京都医健専門学校 1クラス
京都先端科学大学附属高等学校 1クラス
京都府立久御山高等学校 3クラス

●大阪府

専修学校クラーク高等学院　大阪梅田校 3クラス
四條畷学園中学校 1クラス
大商学園高等学校 13クラス

●兵庫県

神戸星城高等学校 3クラス
神戸市立神陵台中学校 1クラス
豊岡市立但東中学校 1クラス
兵庫県立洲本高等学校 1クラス
芦谷学園高等学校 2クラス

●山口県

山陽小野田市立厚狭中学校 3クラス

●徳島県

徳島県立城南高等学校 2クラス
徳島県立徳島科学技術高等学校 1クラス

【重文】『俊昌弁慶相騎図絵馬』を公開
春の『京都非公開文化財特別公開』開催

春の『京都非公開文化財特別公開』＝京都古文化保存協会主催＝が六月十八日から二十六日まで当宮宝物殿にて開かれた。国宝『北野天神縁起絵巻 承久本』（平成記録本）や、重要文化財『俊昌弁慶相騎図絵馬』・『鬼切丸別名髭切』をはじめとした数多くの刀剣が公開され多くの拝観者で賑わった。期間中受付や案内には立命館大学古美術研究会の学生が従事し、今まで勉強した知識を基に拝観者へ宝物の説明などを行い学生にとっても貴重な体験となった。今回特別公開した『俊昌弁慶相騎図絵馬』は、長谷川等伯が亡くなる二年前七十歳の時に描かれた最晩年の作品であり、源頼朝の命令で義経の命を狙った土佐坊昌俊を、武蔵坊弁慶が生け捕りにして堀川の屋敷へ連行する場面を、縦2・75メートル、横4・07メートルの画面に豪快に描かれている。画面右側に「慶長拾三年六月吉祥日」という年紀、さらに「雪舟五代長谷川法眼等伯七十歳筆」との款記がそなわる。等伯が法眼に叙せられたのは、慶長十年（一六〇五）のこと。本作は、そのお披露目もかねた作品として描かれた可能性が高い。

京都歴史回廊協議会
神職から当宮の歴史・信仰を学ぶ
立命館大学学生も境内をガイド

「北野天満宮の歴史と菅原道真公について理解を深めよう」という京都歴史回廊協議会（事務局・立命館大学）の催しが、六月二十六日、当宮であり約三十人の市民が当宮の歴史や菅公について学んだ。

同協議会は、歴史遺産の豊富な京都市北西部の住民や大学・学生らが連携し、地域の歴史・文化を次世代へ伝承していくことを趣旨に活動している市民団体。二〇〇四年の結成以来、講演会の開催や社寺・史跡探訪など様々な催しを通じて地域の活性化を図るなど成果を上げており、この日の催しもそんな活動の一環。

まず文道会館で当宮神職が講師となり、「本日は歴史書に書いていることだけでなく神職として信仰面も加えながら話したい」と前置きして、学者・教育者・文化人・政治家と様々な顔を持たれた菅公の出自から業績、なぜ没後、平安京の天門・北野に祀られたのか、一條天皇から天満大自在天神の御神号を賜って怨霊信仰から天神信仰に転化したことや、天神信仰の広がり方などなど、幅広い観点から当宮の歴史と菅公の功績などを約一時間にわたって話した。

講演を聴いた後、受講者は御本殿に正式参拝し、立命館大学の二回生と三回生の女子学生二人のガイドで境内を歩き、御社殿の説明を受けた。二人は昨秋以来、数回にわたり当宮で神職から「学生観光ボランティアガイド」の育成研修を受けてきており、「これまで学生のガイドはしたことがあったが、大人の案内をするのは初めて」と言いながらも堂々としたガイドぶりをみせていた。

老舗一保堂のお茶の販売カー 当宮にて訪問販売

京都の老舗茶舗、一保堂茶舗の販売カーが四月十七日に来社、境内にてお茶の販売が実施された。

一保堂茶舗は享保二年（一七一七年）に創業され、全国に百ヵ所以上の店舗を展開しているが、今回のように車を使っての出店や、販売のみにとどまらずお茶に関する教室などお茶の文化の隆盛にも力を尽くしている。

今回、北野大茶湯にて秀吉公が実際に使用したと伝わる太閤井戸の前にて販売が行われたが、快晴にも恵まれ、道行く多くの参拝者がお茶の香りに足を止め、お茶を楽しみながら歴史や作法に触れるなど、終日大賑わいであった。

香老舗松栄堂 境内にてお香を販売

京都が誇る香老舗、松栄堂の販売カーによる訪問販売が五月十五日に、当宮の楼門前にて催され、参拝者をお香の世界に誘った。

松栄堂は三百年ほど前に「笹屋」という屋号で香薫製造を興したのが始まりで、お香の文化を後世に伝えるとともに、「お香とお茶の会」や国内外で講演活動を行うなど積極的に普及活動を行っている。

今回の販売では様々な香りのお香や匂い袋が並び、境内を漂う香りに多くの参拝者が足を止め、お香の種類の多さや香りの調合についてなどお香の世界が持つ奥深さに次々と魅入られ、大盛況のうちに終了した。

三年ぶりに待望の再開 伝統芸能猿回し

毎月二十五日の天神さんの縁日に欠かさず奉納されている伝統芸能の猿回し。観覧する参拝者を楽しませる恒例行事であったが、近年世間を騒がせるコロナ渦において、感染予防のため中止を余儀なくされていた。

しかし、猿回しの再開を望む声に後押しを受け、去る六月二十五日についに再開が叶うこととなった。実に三年ぶりとなる猿回しは快晴にも恵まれ、集まった多くの参拝者より拍手喝采が贈られた。

JA京都市が中ノ森広場で農産物品評会

農産物の品質向上を目指すJA京都市主催の夏季農産物品評会が七月八日、中ノ森広場で開かれた。

京都市内の農家からトマト・ナス・キュウリなど約三十種・八百点の野菜が出品され、摂南大学農学部の寺林敏教授を審査長に入念に審査し、知事賞・市長賞・北野天満宮賞などを決めた後、即売会が行われた。出品農家が丹精込めた自慢の野菜が安価で買えるとあって多くの市民が詰めかけた。

天神さん 思い出写真館

京都の写真家、黒川翠山（一八八二～一九四四）が昭和初期に撮影したとみられるガラス乾板写真二枚である。

一枚は下ノ森に立つ一の鳥居（大鳥居）と、その向こうに広がる南神苑である。もう一枚は、鳥居をくぐって南神苑をさらに北進したところから臨む当時の二の鳥居である。この写真は、現在の上京警察署辺りからの撮影だろうか。

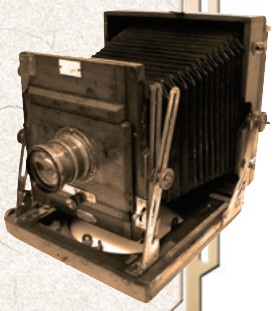
一の鳥居の建立は、明治四十四年に梅風講社皆燈講によって計画され、南神苑の一部を模様替えし、大正十年十月に奉納されるという十年がかりの一大事業であった。

鳥居の石は木曽にあった巨石が使われたが、重砲輸送用の大貨車に積んで二条駅まで運ばれ、そこからは三十三頭と三十一頭の牛が曳く二台の牛車で運ばれたという。牛車の行進で近くの民家がメリメリと音を立てたので驚いたといった話も残されている。

ともあれ、この二枚の写真を見れば、南神苑が如何に広大なものであったか想像できよう。

南神苑が西陣警察署（現上京警察署）などに譲渡されたことに伴い、昭和四十一年、この大鳥居は当時の二の鳥居の場所、つまり現在の場所に移設された。

二枚の写真を手にして上京警察署の南側周辺、下ノ森の商店街を歩いた。が、一世紀近い時の流れは、雰囲気すら伺うことのできない変貌ぶりをみせていた。



献詠

濱崎加奈子選

菅公は詩歌に優れ、多くの名歌を詠まれました。室町時代には「和歌の神」と仰がれ、さらに柿本人麻呂と山部赤人と並んで「和歌三神」と称えられています。

四月「東」

東より桜前線北上し
　列島やっと活気付きたり　岐阜県　波多野千寿子

東風吹けば香り立つ花国の
　春吉野の里を染める桜樹　京都市　小山　博子

東風（こち）にのせ匂ひおくらむ北野社の
　紅梅白梅いま盛りなり　京都市　朧谷　寿

たかむらの風音やみて暁の
　窓にかすかな東雲の影　京都市　服部満千子

東山わたる春雨暖かく
　花も小鳥もささめき笑ふ　京都市　塩小路光胤

ぽつかりと穴あく報せ東より
　君また疾し西日の眩し　京都市　若狭　静一

若人の集ふ上野の学び舎に
　東の空は白く明けそむ　東京都　白石　雅彦

【評】
「ひがし」「ひむがし」と読むか、「あづま」と読むか。逢坂の関より東、中部から関東、東北は「あづま」である。「東路に行き交ふ人にあらぬ身はいつかは越えなむ逢坂の関」（後撰集）など、恋の思いを託す歌も多く詠まれた。

五月「馬」

千支の馬コロナなどには負けはせぬ
　流鏑馬今日も境内駆ける　岐阜県　波多野千寿子

駄馬なれど一心不乱に走りこめ
　駿馬の道も遠きに非ず　京都市　朧谷　寿

大祖母の御馬車の迎えの桜宴と
　海も見渡す小旅もうれしけり　京都市　小山　博子

宇治川の高き瀬枕うち入りて
　渡る生唼波一文字　京都市　服部満千子

競馬場芝生で食べるお弁当
　さくらんぼは食後のデザート　京都市　村島　麗門

風をきる馬の姿にもろ手あげ
　喜ぶ子らの姿麗し　京都市　塩小路光胤

夕暮れの馬場に重なる蹄あと
　祭は無事に終はりて涼し　京都市　若狭　静一

駆け抜けて乱れたなびく立髪に
　瞬きもせじ残る脚音　京都市　竹中　美加

あなたふと引かるる馬も頭垂る
　神の御前に幸多かれと　京都市　朝比奈栄子

願ひ事善男善女絵馬にかけ
　響く拍手今も昔も　東京都　白石　雅彦

【評】
五月の京都は競馬、流鏑馬神事など、馬が邪を払う神事行事に出会うことが多い。和歌には「駒」の方が詠まれた。「世に絶えし道踏み分けていにしへのためしにも引け望月の駒」（後水尾院）と、陰暦八月中旬に各地から献ぜられた馬を見る行事があり、「望月の駒」が歌ことばとなっている。

六月「百合」

笹百合の絶ゆることなき熊野道
　実母の一句孫らも好む　京都市　村島　麗門

百合の夏百万遍往復の局員の
　汗で結はれし葉書の愛　京都市　小山　博子

今年また遠路わざわざ百合の花
　届け給ひし友情に謝す　岐阜県　波多野千寿子

山百合の香にさそはれて分け入れば
　別れし人の肌忍はるる　京都市　服部満千子

朝に慈悲あらば白さを増す百合を
　無垢と讃へて報告書見る　京都市　若狭　静一

ゆりを持つ若き乙女のまなさしに
　未来へ進む炎を見ゆ　京都市　塩小路光胤

三輪山の小百合の祭舞姫の
　姿美はし七乙女かな　東京都　白石　雅彦

【評】
接頭語「さ」をつけて「さゆり」「さゆりばな」などと用いられる。夏草の影にひっそりと咲く様子が「さゆりば」として恋の状態を詠むことも。「さゆり葉の知られぬ恋もあるものを身よりあまりて行く蛍かな」（定家）

● 献詠奉納についての問い合わせは、北野天満宮献詠係までご連絡ください。

正式参拝された皆様（敬称略）（四月～七月）

四月　三日（日）岩津天神太鼓
四月二十六日（火）三菱地所株式会社
五月　十五日（日）津田天満神社 氏子厄年会 申巳令会
六月　六日（月）全国天満宮梅風会
六月　十二日（日）愛知県春日井市　天神社奉賛会
六月　十八日（土）日本将棋連盟　藤井聡太叡王
七月　二日（土）北田自治会
七月　十三日（水）高知県四万十市　天神社総代会
七月二十一日（木）公益財団法人全国社寺等屋根工事技術保存会
七月　十四日（木）京都北ロータリークラブ　増田康男前会長

挙式された皆様（四月～六月）

五月　二日（月）大澤 新平・妙子　ご夫婦
五月　十四日（土）前川 明紀・千紘　ご夫婦
　田島 雅己・萌々香　ご夫婦
五月二十二日（日）森下 祥平・さよ子　ご夫婦
五月二十八日（土）樋口 貴茂・美月　ご夫婦
六月　十四日（火）神谷 昌裕・友美　ご夫婦

新郎新婦様、御両家の皆様の末永いご多幸をご祈念申し上げます。

「京の夏の旅」と共催

源氏の兄弟刀所蔵の大覚寺と同時開催
『永遠に継ぐ源氏の重宝』展、賑わう

源氏の重宝として伝来した兄弟刀を所蔵する当宮と大本山大覚寺が同時開催として両社寺の歴史を繙く特別展の第三弾が七月九日から両社寺で始まった。

今回は「京の夏の旅」（京都市観光協会主催）との共催企画で、当宮の企画名は「永遠に継ぐ源氏の重宝」展。好評放映中のＮＨＫの大河ドラマ『鎌倉殿の十三人』の影響もあり、宝物殿は初日から約四百人の刀剣ファンなどで賑わった。

当宮は「鬼切丸別名髭切」、また大覚寺は「薄緑別名膝丸」（ともに重文）を所蔵する。平安末期、清和源氏の二代目源満仲の命により天下を納める刀として打たれた両刀は兄弟刀として名を馳せ、源氏重宝として、歴代の源氏の棟梁がそれを所持した。その由来の中には源頼朝とその弟源義経が所持していたとも伝えられ、多くの伝説を秘めた太刀である。

当宮の企画展では所蔵の「鬼切丸」を展示したほか、大覚寺の「薄緑」についても太刀の押形を展示し、源氏ゆかりの兄弟刀の雰囲気が味わえるよう趣向を凝らした展示企画をした。また「鬼切丸」の伝来がわかる史料やＧＨＱによる刀狩りを乗り越えて今に伝わることを示す新資料も展示した。

初日は開館前から宝物殿前に行列ができるほどの人気ぶりで、宝物殿を見た後「薄緑」の実物を見るため大覚寺に向かう人や、逆に大覚寺から当宮に来た人もあり、両社寺を結ぶヤサカタクシーも運行されるなど、根強い刀剣ブームを伺わせた。また大覚寺と協力して製作した記念品類の売れ行きも好調だった。

企画展の会場では、「鬼切丸」関係のほか、恒次銘や助守銘の太刀（ともに鎌倉時代・重文）など刀剣類約三十振のほか、書画や武具・鏡など合わせ約六十点を展示。書画類では六曲一双の海北友松作「雲龍図屏風」（江戸時代・重文）を久々に展示。

同展は九月十二日まで開催。なお開会前日の七月八日には報道関係や旅行会社などに向け同企画展の内覧会を開催し、多くの関係者が来場した。

公開初日から多くの拝観者で賑わった

永遠（とわ）に継ぐく 源氏の重宝（ちょうほう）

源頼朝、義経ゆかりの兄弟刀、同時公開！

北野天満宮と大覚寺の歴史を繙く特別展の第３弾は、源氏の重宝として伝来した兄弟刀《鬼切丸 別名髭切》と《薄緑 別名膝丸》の伝説に加えて、現代へといたる近代の二振りならびに両社寺の歴史に関しても繙きます。両刀は、源満仲により兄弟刀として鍛えられたのち、源氏の棟梁源頼朝とその弟源義経により所持されていたと伝わります。また二振りの白鞘には、それぞれ戦後ＧＨＱによって行われた刀狩りの際に付けられた英文のラベルが付されており、両社寺にはＧＨＱに提出した書類も残されています。

この度の特別展では、困難な時代にありつつも源氏の重宝を守り伝えてきた人々の思いにも注目したいと考えています。

また併せて北野天満宮では海北友松による《雲龍図屏風》を、大覚寺では安井堂天井の《雲龍図》をご覧いただけます。

この度も両社寺同時開催となります。各社寺拝観特典もご用意しておりますので、合わせてお楽しみいただけましたら幸いです。

戦後ＧＨＱの刀狩りの際「薄緑」に付けられた英文のラベル　戦後ＧＨＱの刀狩りの際「鬼切丸」に付けられた英文のラベル

天満宮 歴史の一齣

京都大学名誉教授
藤井 譲治

禁裏での古今伝授と和歌短冊の奉納

前号で触れたように江戸時代を通じて天皇・上皇から和歌短冊・和歌巻子が北野天満宮に奉納されてきた。

今回と次回は、このうち和歌短冊について紹介しよう。奉納された短冊は、禁裏で天皇や上皇に古今伝授がなされたのを機に、天皇や上皇が主催し多くの皇族公家が参加した歌会でのものである。

これらの短冊は、頭部に穴を開け、紙縒りで一括され、桐箱に収められ、奉納されている。

古今伝授に際しての天皇等からの和歌短冊の奉納は、中世にはみられず、江戸時代になって始まるもので、奉納は、北野社のほかに住吉社、玉津島社になされた。

禁裏での古今伝授は、慶長五年（一六〇〇）の関ヶ原の戦いに際し、古今伝授の途絶を恐れた後陽成天皇が、丹後宮津城に籠もっていた細川幽斎の元に八条宮智仁親王を派遣し、そこで幽斎から智仁親王になされたのに始まる。

その後禁裏では、寛永二年（一六二五）に智仁親王から後水尾天皇に伝授され、明暦三年（一六五七）には後水尾院から妙法院尭然・聖護院道晃・岩倉具起・飛鳥井雅章の四人にまず伝授された。そして寛文四年五月二十二日、後水尾法皇から後西上皇に伝授された。

諸社への短冊奉納は、後水尾法皇主導による宮廷花壇の活性化を背景にしたもので、禁裏における新儀として、後水尾法皇の薫陶を受けた後西上皇によって寛文四年（一六六四）に始められ、後代に受け継がれていったものである。

古今伝授に際して禁裏から和歌短冊が住吉社・玉津島社へ奉納されたことは従来から知られていたが、北野社への奉納の事実は、これまで学界でもほとんど知られていない新たな知見である。

古今伝授に際しての和歌短冊奉納は、住吉社・玉津島社への奉納が北野社よりわずかに先行して、古今伝授の直後になされている。

寛文四年の例をみると、住吉・玉津島社へは同年六月一日の歌会のものが、北野社へは同年同月二十五日の歌会のものが奉納されている。ちなみに二十五日は禁裏での聖廟法楽の日である。

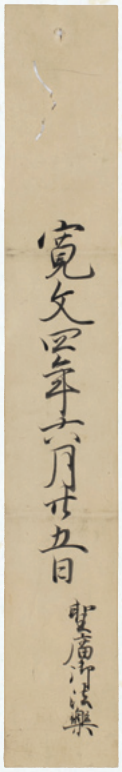
また、短冊の大きさを見ると、寛文四年の後西上皇の時は、住吉社・玉津島社へ奉納された短冊は、縦三三・八センチ、横五・一センチ、であるのに対し、北野社へ奉納されたものは縦三五・〇センチ、横五・二センチと一回り大きく立派なものである。

後西上皇和歌短冊　寛文四年短冊　先頭

八条宮徳仁親王和歌短冊　寛文四年短冊　二枚目

西園寺実晴和歌短冊　寛文四年短冊　三枚目

飛鳥井雅章和歌短冊　寛文四年短冊　最後尾一枚表



寛文四年短冊　最後尾一枚裏

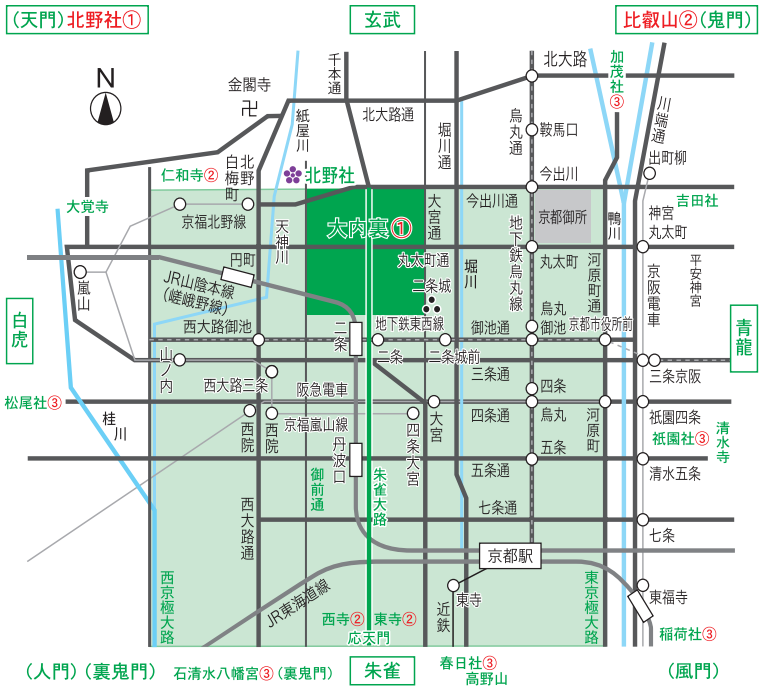
天神信仰の主な歴史

（注）歴史事項　北野天満宮事項　伝説事項

菅公薨去後、およそ百年かけて醸成され千年受け継がれる天神信仰

承和	十二年	八四五	菅原道真公（菅公）御誕生（父 是善 母 伴氏）	父 是善との親子の契り
斉衡	二年	八五五	初めて詩「月夜に梅華を見る」を作る	（菅公十一歳）
貞観	元年	八五九	菅公元服　文章生を目指し勉学	菅公 石清水八幡宮参拝
貞観	四年	八六二	文章生の試験に合格	（菅公十八歳）
貞観	八年	八六六	比叡山延暦寺円仁の『顕揚大戒論』の序文を書く	
貞観	九年	八六七	文章得業生となる	（菅公二十三歳）
貞観	十二年	八七〇	この間少内記（詔勅の起草係）式部少輔など任ぜらる（菅家廊下を継承）	（菅公二十六歳）
仁和	二年	八八六	讃岐守に任ぜられる	（菅公四十二歳）
仁和	四年	八八八	〈阿衡問題〉につき藤原基経に意見書を送る	（菅公四十四歳）
			これにより宇多天皇に挙用され政治の刷新を図ると共に平安京文化の礎を築く	
寛平	四年	八九二	従四位下『三代実録』『類聚国史』の編纂に着手	
寛平	五年	八九三	参議・式部大輔・左大弁を経て勘解由使長官	
寛平	六年	八九四	遣唐大使に任ぜらる	（菅公五十歳）
寛平	七年	八九五	渤海客使を接待し詩を交換　中納言従三位	
寛平	九年	八九七	正三位に叙し中宮大夫を兼ねる	
昌泰	二年	八九九	菅公右大臣に任ず　位人臣を極める	（菅公五十五歳）
昌泰	三年	九〇〇	『菅家文草』『菅家後集』『菅家集』を献上す（三善清行、菅公に辞職を勧告）	
延喜	元年	九〇一	一月二十五日大宰権帥に左遷される　大宰府南館で謫居の日々（菅公五十七歳）	
延喜	三年	九〇三	詩集『菅家後集』を京の紀長谷雄に送る　天拝山で「天満大自在天神」となる	
			二月二十五日　配所において薨ず	（菅公五十九歳）
延喜	五年	九〇五	味酒安行　大宰府に祠堂を建てる（現在の太宰府天満宮）	
延喜	六年	九〇六	門弟許され　京の都西ノ京にて菅公神霊を祀り始める	
延長	元年	九二三	菅公を元の右大臣・正二位に叙し　左遷の宣命を破棄す	
天慶	五年	九四二	多治比文子　比良宮神官の子太郎丸らに神託（朝日寺の僧 最鎮）	
天暦	元年	九四七	村上天皇により平安京の天門北野に鎮座す	
			村上天皇御鳳輦御寄進	
天暦	三年	九四九	村上天皇勅命により難波宮の地に菅公神霊を祀る（現在の大阪天満宮）	
天徳	三年	九五九	右大臣藤原師輔　北野の神殿を増築し神宝を献ずる	
寛和	二年	九八六	慶滋保胤「文道之祖詩境之主」の願文を草す	
永延	元年	九八七	一條天皇より北野社官幣に預り「北野天満大自在天神」の神号を賜る	
			北野社は官幣社となり勅祭北野祭が斎行される（江戸末期迄）	
正暦	四年	九九三	一條天皇御鳳輦御寄進	
寛弘	元年	一〇〇四	左大臣・正一位　次いで太政大臣を追贈される	
永保	元年	一〇八一	一條天皇初めて臣下を祀る北野社に行幸　以後歴代天皇の行幸に与る	
康和	三年	一一〇一	北野社が国家の大事を祈る二十二社に臣下で異例の加列	
建久	五年	一一九四	大宰権帥大江匡房により大宰府・安楽寺にて神幸式大祭が斎行される	
承久	元年	一二一九	『北野天神縁起』建久本成る	
			『北野天神縁起』承久本成る	
応永	八年	一四〇一	北野経王堂成る	
応仁	元年	一四六七	室町幕府の崇敬で「北野祭」隆盛を極めるも応仁の乱より途絶える	
天正	十五年	一五八七	「北野大茶湯」を豊太閤・千利休居士ら催す	
慶長	八年	一六〇三	出雲阿国が北野境内で初めてややこ踊り（歌舞伎踊り）を公演（歌舞伎発祥）	
慶長	十二年	一六〇七	豊臣秀頼公　北野社社殿を造営する（慶長の大造営）	
			後西天皇御宸筆 勅額「天満宮」御寄進（三光門掲額）	
江戸年間		後期	北野をはじめ太宰府・大阪・湯島など主要な天満宮に「和魂漢才碑」建立	
元治	元年	一八六四	勅命により北野祭臨時祭再興	
慶応	四年	一八六八	神仏判然令（神仏分離）により　天台宗比叡山延暦寺のもと	
			社務を統括していた曼殊院との凡そ千年間に亘る神仏習合が終わる	
明治	四年	一八七一	北野天満宮 臣下で異例の官幣中社となる	
			太宰府天満宮 国幣小社となる（のち官幣中社）	
明治三十五年		一九〇二	菅公千年大萬燈祭を斎行する	
昭和二十七年		一九五二	菅公千五十年大萬燈祭を斎行する	
平成 十四年		二〇〇二	菅公千百年大萬燈祭を斎行する	
令和 二年		二〇二〇	例祭（かつての北野祭）斎行に伴い　比叡山延暦寺と共に北野御霊会を再興	
令和 九年		二〇二七	菅公千百二十五年半萬燈祭を斎行予定	

今昔マップ



◆北野社創建（平安時代）至現在
◆現在の京都

□ 平安京全域
■ 平安宮 大内裏

注①　国都平安京大内裏で千百年間天皇の祭政が執行され、日本文化が育まれてきた。

注②　平安京・大極殿の天門に北野、鬼門に比叡山、宇多天皇創建の仁和寺などが精神的中心となって熟成の礎となった。

注③　八幡さま、稲荷さまを始め多くの神仏は国都平安京（元の国都平城京）の近畿より全国に伝播。

天満宮
［第三十二号］
令和四年七月二十五日　編集・発行／北野天満宮　編集責任者／橋　重史　〒六〇二―八三八六　京都市上京区馬喰町　電話〇七五―四六一―〇〇〇五（代表）　http://kitanotenmangu.or.jp/

京都 平安京の入門

紅梅殿結婚式

日本文化の発信地、紅梅殿からはじまる家族の日

貞観元年（八五九年）菅公が十五歳の元服の折、母君は菅公の前途を祝し、『**久方の月の桂も折るばかり家の風をも吹かせてしがな**』の和歌を詠み励まされました。

我が国で最初に家風を表されたのが、菅公の母君であったと伝えられています。立派な家風をもった稔り多い新たな家庭を築かれますようにとの願いをこめて、菅公邸宅ゆかりの紅梅殿での神前結婚式から新しい「家族」がはじまります。

天神様の秋まつり

ずいきまつり 瑞饋祭

●由緒

京都の代表的な秋祭りとして知られる瑞饋祭は、村上天皇の御代にはじまる勅祭「北野祭」が起源と伝えられています。

年に一度、御鎮座の往時に思いを致し御神霊を「お迎えする」ことで、氏神としての天神様を改めて意識し感謝する心が育まれます。

十月

一日	神幸祭	午後一時　行列出発
		午後四時　御旅所到着
二日		午前十時　献茶祭（表千家宗匠奉仕）
三日		午後三時　甲御供奉饌（七保会奉仕）
四日	還幸祭	午後一時　行列出発
		午後四時半　本社到着
五日		午後三時半　后宴祭（八乙女舞奉納）

七五三詣は、知恵の神様 北野天満宮へ

七五三詣は、子供の成長に感謝し無事を祈り、神社にお参りする大切な人生儀礼です。子供は国の宝であり、親にとってもかけがえのない宝です。

北野天満宮で七五三詣をし、子供の成長と無事を祈るとともに、さらに天神様の御加護で知恵を授かりましょう。ご家族お揃いでのご参拝をお待ちいたしております。

一、受付日
十一月中、毎日受付いたします。
※但し、十一月二十三日（水）、十一月二十六日（土）は、祭典のためご祈祷を中断する時間帯がございますのでご了承下さい。
※尚、十一月以外の月も、事前にお申込み下さればお受けいたします。

一、七五三詣初穂料
一人　五千円より
二人　八千円
三人　一万二千円
（兄弟姉妹に限る）
（兄弟姉妹に限る）

一、授与品・記念品
知恵守、千歳飴、祝い笹、アニメ「鬼滅の刃」の学用品セット

一、案内状持参の特典
特別授与品の「勾玉」を進呈

★七五三詣の方は、史跡御土居もみじ苑入苑優待あり

御縁日 境内ライトアップ

毎月25日は天神さんの御縁日。
境内特別ライトアップ！

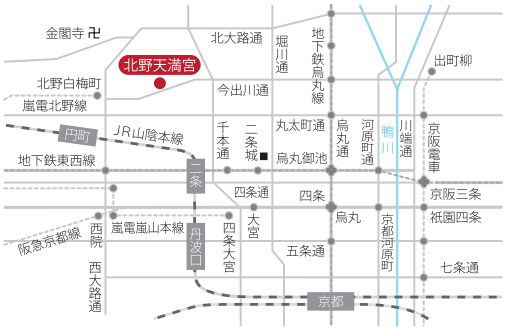
定期購読のお知らせ

- 定期購読 1,000円（1年分）
  季刊・年4回発行
- 学校・教育機関でお申込みの場合は無料発送。
- お申込み・お問い合わせは、社務所まで。

右記ＱＲコードを携帯電話やスマートフォンで読み込むと北野天満宮の最新情報にアクセスできます。上記の各ＳＮＳでもご案内しております。

●アクセス

名神高速道路南インター又は東インターより約30分
JR京都駅より市バス50系統
JR・地下鉄二条駅より市バス55系統
JR円町駅より203系統
地下鉄今出川駅より市バス51・203系統
京阪出町柳駅より市バス203系統
京阪三条駅より市バス10系統
阪急大宮駅より市バス55系統
阪急西院駅より市バス203系統
京福電車白梅町駅より徒歩5分
いずれも北野天満宮前下車すぐ

●駐車場

参拝専用です。
駐車は参拝時間内に限ります。
〈開場時間〉9時～17時
※毎月25日は、縁日のため駐車できませんので公共交通機関でお越しください。